

# 武庫川水系河川整備基本方針

## 流域及び河川の概要に関する資料

平成 21 年 3 月

兵 庫 県

# 武庫川水系河川整備基本方針 流域及び河川の概要に関する資料

## 目次

1. 流域の概要.....	1
1.1 流域・河川の概要.....	1
1.2 地形.....	6
1.3 地質・土壌.....	8
1.4 気候・気象.....	12
1.5 歴史・文化.....	14
1.6 河道の特性.....	16
2. 流域及び河川の自然環境.....	21
2.1 流域の自然環境.....	21
2.2 河川の自然環境.....	22
2.3 特徴ある河川景観.....	32
2.4 自然公園等の指定状況.....	33
3. 流域の社会状況.....	35
3.1 土地利用.....	35
3.2 人口.....	37
3.3 産業・経済.....	38
3.4 交通.....	41
4. 水害と治水事業の沿革.....	42
4.1 水害の歴史.....	42
4.2 近年の災害の発生状況.....	45
4.3 治水事業の沿革.....	50
5. 水利用の現況.....	55
5.1 武庫川の水利用.....	55
5.2 水道用水・工業用水.....	56
5.3 農業用水.....	57
5.4 環境用水.....	58
5.5 下水道.....	59
6. 河川流況と水質.....	64
6.1 河川の流況.....	64
6.2 河川水質の現状.....	65
7. 河川空間の利用状況.....	71
7.1 河川空間の利用状況.....	71
7.2 河川敷の利用状況.....	72
7.3 内水面漁業の現状.....	75
8. 河川管理の現状.....	77
8.1 管理区間.....	77
8.2 横断工作物.....	78
8.3 河川情報.....	79
8.4 危機管理の取り組み.....	80
8.5 地域連携.....	82

# 1. 流域の概要

## 1.1 流域・河川の概要

武庫川水系は、その源を丹波山地に発し、篠山市南矢代地区で河川名を武庫川に変え、天神川を合わせ三田市に至る。さらに三田市広野まで大蛇行しながら流下し、広野で相野川、内神川、青野川を、三田市街南で山田川を、神戸市北区道場町で有馬川、船坂川、羽束川を合わせて、これより宝塚市の生瀬まで北摂山地を浸食してできた深い峡谷を流下する。峡谷の南端で名塩川、太多田川を合わせて宝塚付近で武庫平野に出る。さらに逆瀬川、仁川、天王寺川を合わせて南下し、西宮市、尼崎市の間を貫流し、大阪湾に注いでいる。

武庫川は二級河川に指定されており、その流域は2府県7市1町にまたがり、流域面積 499.9km<sup>2</sup>、幹川流路延長 65.7km である。

武庫川の状況は、地形によって平坦な農耕地を流れる上流部、急峻な峡谷をなす中流部、平坦な市街地を流れる下流部にわけられる。

上流部は川幅が狭く、勾配が小さいので、非常に緩やかな流れになっている。ほとんどが築造された単断面河道または山付けであり、堤防に沿って桜並木が整備され、散策道に利用されている。羽束川が合流する中流部の峡谷は自然環境や景観が保たれており、名称のついた大きな瀬・淵・岩などが多くあり、峡谷の名所となっている。特に武田尾から下流部は四季を通じて廃線跡および桜の園ハイキングで多くの県民が訪れる。下流部は仁川合流点付近から下流が天井川の様相を呈しており、低水護岸のある複断面河道は、高水敷のほとんどの区間で都市公園として武庫川河川敷緑地が整備されている。また、多数の堰や床止めが築かれており、最下流の潮止め堰より下流はほとんど流れのない感潮域となっている。

羽束川は大阪府能勢町を源とし、篠山市、三田市、宝塚市、神戸市を流下する流路延長約 30km の最長の支川であり、途中には羽束川溪谷、千苺貯水池がある。青野川は三田市の北端を源流とし、青野ダムが途中にある。また、有馬川、丸山貯水池のある船坂川、太多田川、逆瀬川、仁川は、花崗岩質の六甲山系に端を発する急流河川である。

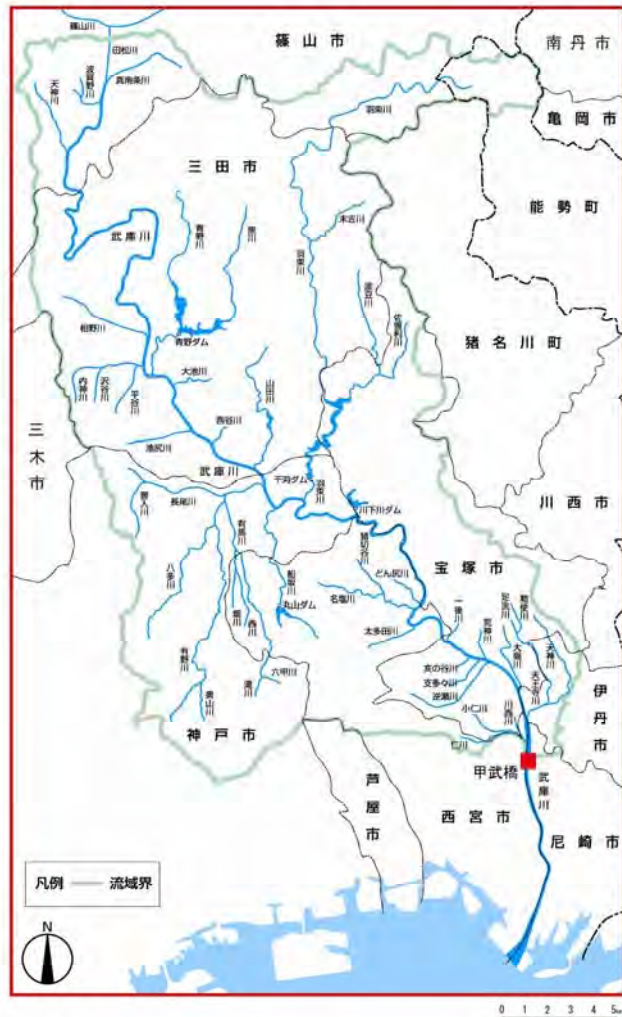


図 1.1.1 武庫川流域図

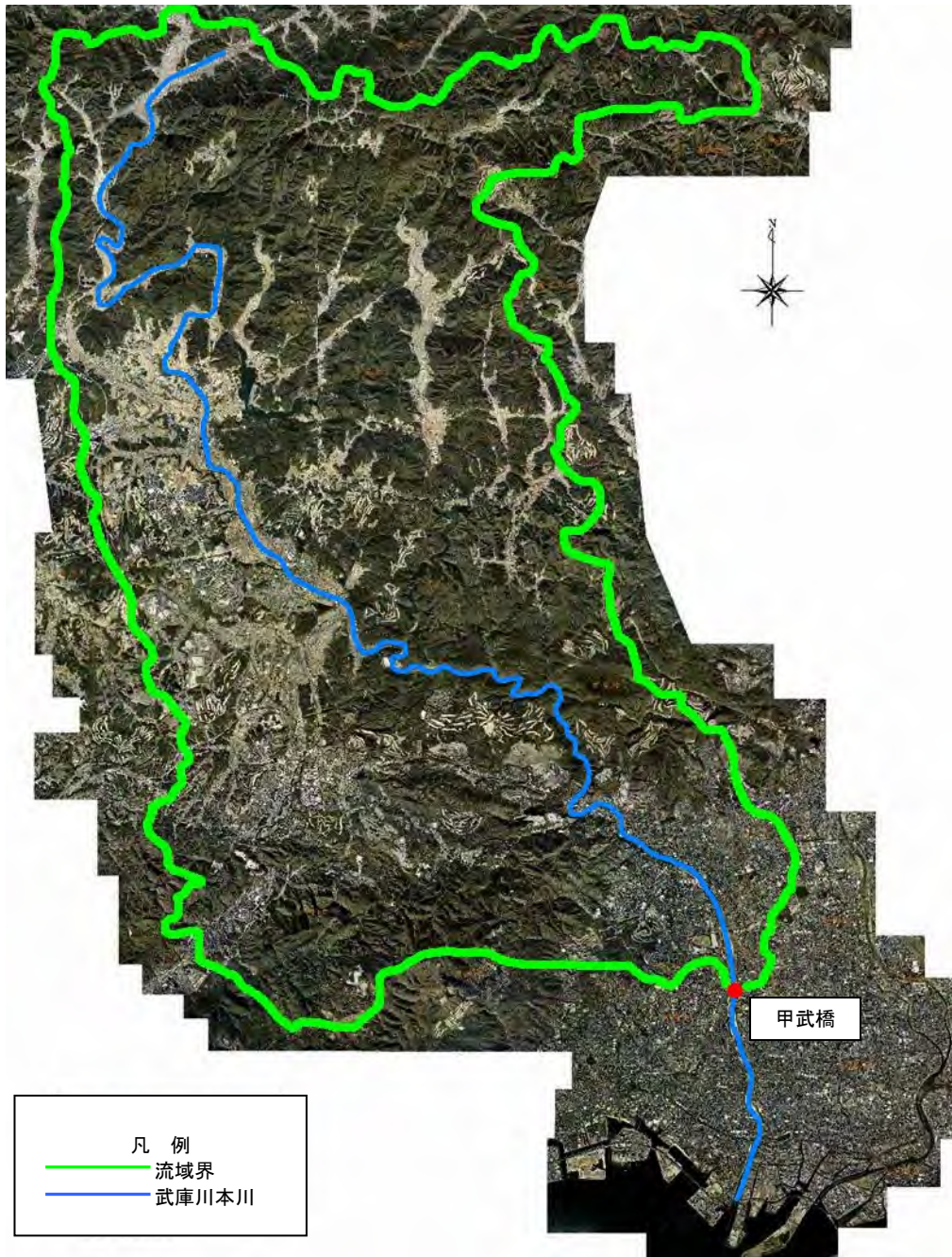


図 1.1.2 武庫川流域航空写真 (H13.11~H14.2 撮影)

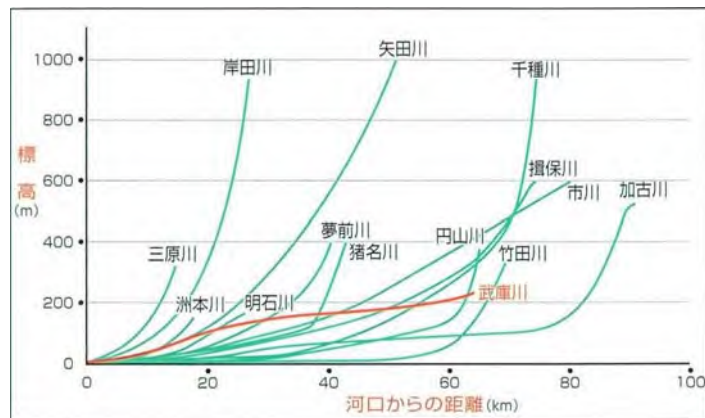
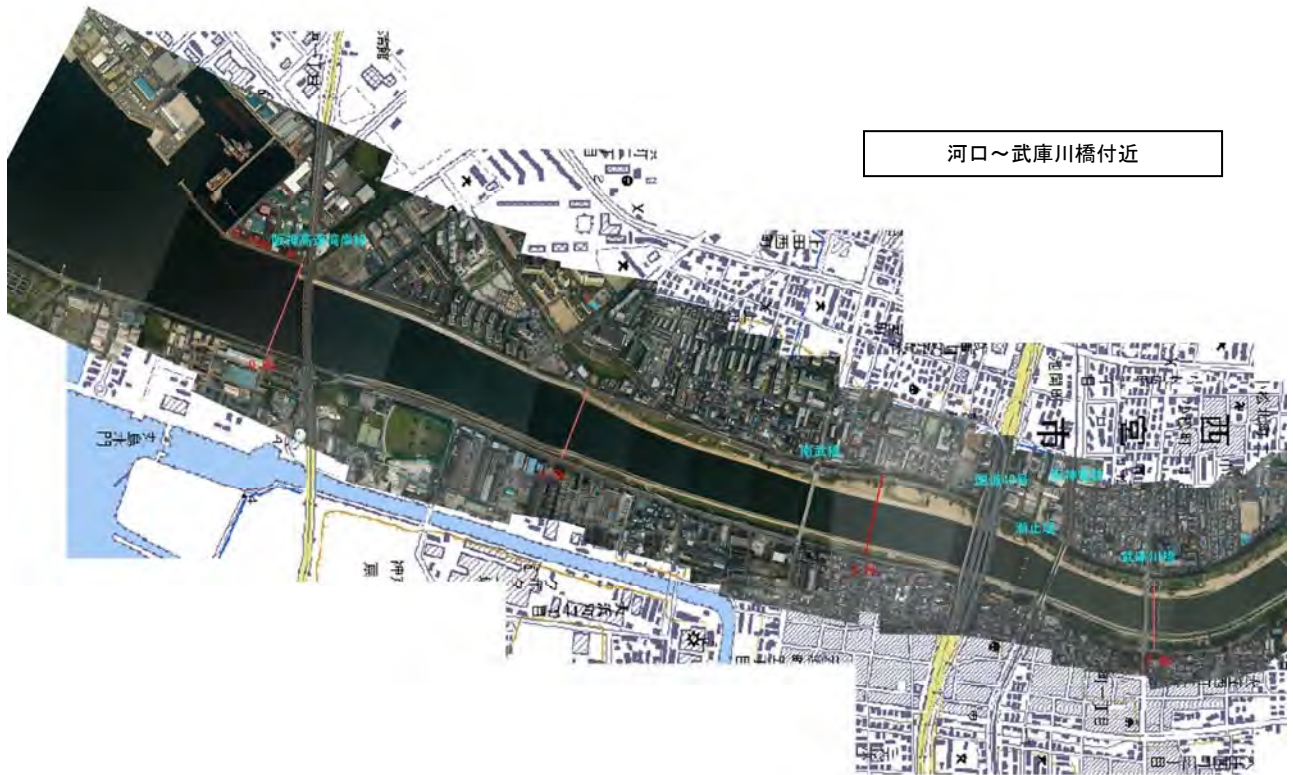


図 1.1.3 武庫川と兵庫県内河川の河床勾配





河口～武庫川橋付近



阪神高速～阪急電鉄付近

图 1.1.4 武庫川航空写真①（平成 17 年撮影）



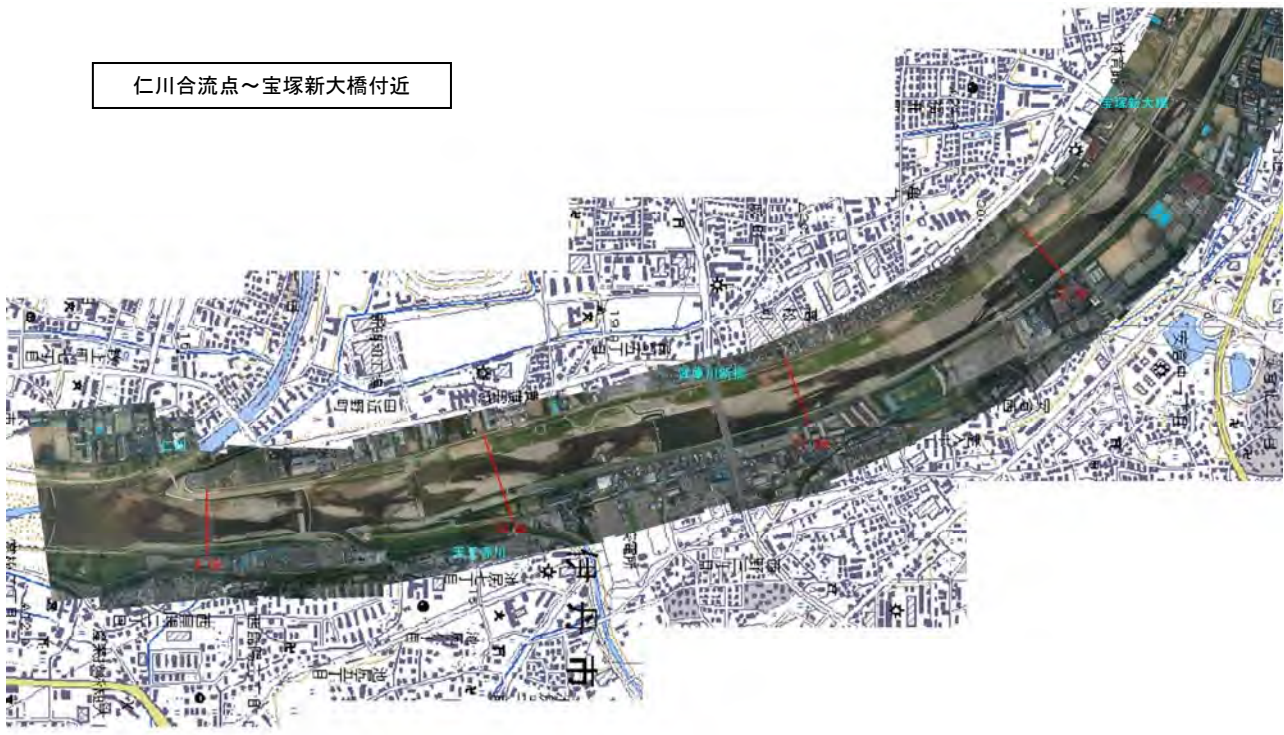
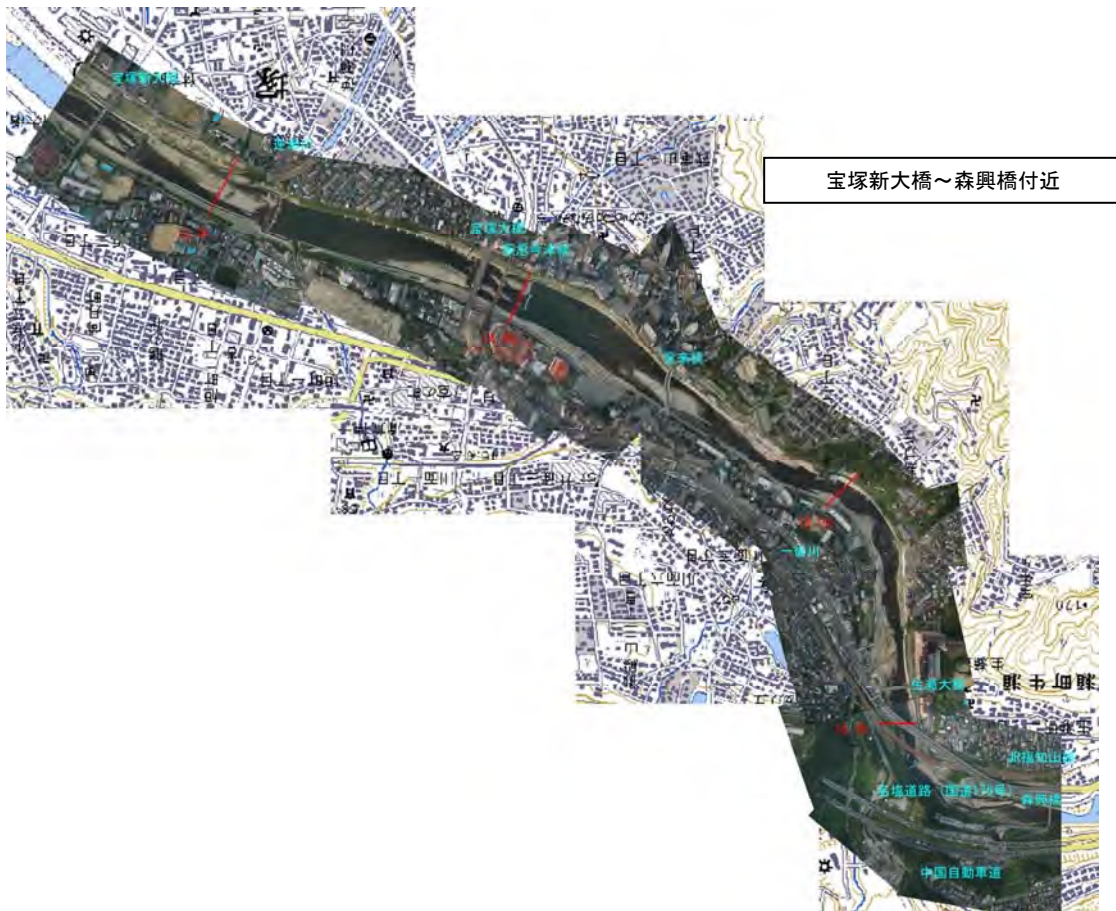
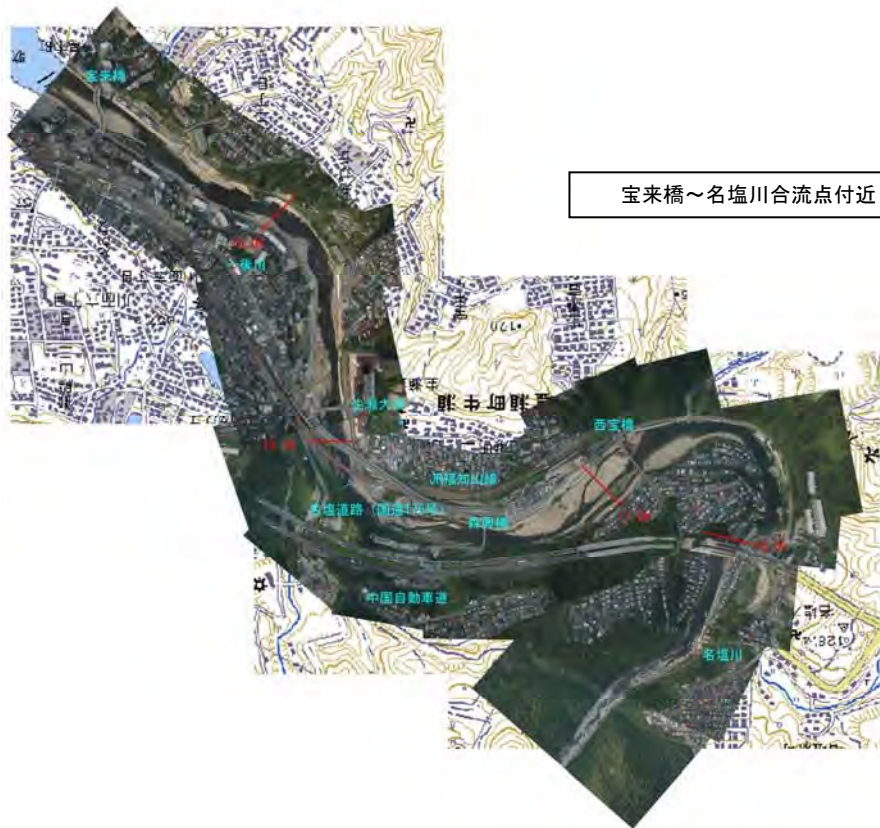


図 1.1.5 武庫川航空写真②（平成 17 年撮影）





宝塚新大橋～森興橋付近



宝来橋～名塩川合流点付近

図 1.1.6 武庫川航空写真①（平成 17 年撮影）

## 1.2 地形

武庫川流域の地形は、大きく三角州、扇状地、山地から構成され、河口部の海沿いは尼崎・西宮側ともに埋立地となっている。

瀬戸内海に面した低地は、武庫川とその東を流れる猪名川が運んだ土砂によって形成された三角州で、その上流側の山裾に形成された扇状地が続いている。この低地が武庫低地で、東播・北摂丘陵台地にはさまれた狭い平地である。扇状地の北には大起伏地形の北摂山地が、西側に六甲山地が連なり、北摂山地を浸食して成立したのが武庫川峡谷である。

武庫川峡谷は、その深さ、切り立った峡谷壁、峡谷上部の濃い緑、峡谷の長さ、曲流して岩を噛みながら流れる姿などがあいまって、県下有数の景観の優れた峡谷となっている。この峡谷部は古くは平坦であって、武庫川はゆったりと大阪湾へと流れていたと考えられている。その後、六甲山の上昇運動とともに急激に隆起したにもかかわらず、武庫川は元の流路のままにその土地を浸食していった。このような形態を先行谷と呼び、元の流路を反映して峡谷は蛇行しており、穿入蛇行と呼ばれる。本川と同様、その支川も山地を刻み込んで峡谷を形成した。武庫川峡谷を含め、武庫川流域では表に示すものが「改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—（2003;兵庫県）」において、貴重な地形として指定されている。

表 1.2.1 武庫川流域の貴重な地形

河川名	所在地	通称名	分類区分	ランク	概要・特徴
船坂川	西宮市山口町船坂	白水峡	バッドランド	A	風化した花崗岩およびその堆積物上に発達した典型的なバッドランド地形。
船坂川	西宮市山口町船坂	船坂の活断層	小断層崖	A	扇状地を切る活断層。方向—東西（六甲・有馬・高槻構造線に沿う）。
太多田川	西宮市山口町船坂	蓬莱峡	バッドランド	A	風化した花崗岩およびその堆積物上に発達した典型的なバッドランド地形。
仁川	西宮市（仁川の阪急線から下流）	仁川天井川景観	天井川	C	天井川の景観（仁川）。
武庫川	宝塚市、神戸市、西宮市	武庫川峡谷	先行河川、貫入蛇行	B	典型的先行河川、三田盆地から西摂（武庫）平野までの山地を横断。
田松川	篠山市当野（武庫川と篠山川）		河川争奪	C	河川争奪。武庫川・篠山川の流路変更、年代、因果関係が明瞭にされた稀有なもの。
田松川	篠山市当野	田松川	谷中分水界	C	田松川、谷中分水界。運河—武庫川と篠山川の上流部をつなぐ人工の河川。南北 2km の間、幅約 300m の低平な谷が分水界

出典：改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—（2003；兵庫県）

表 1.2.2 兵庫県版レッドデータブックでの評価ランク（植物群落，地形，地質，自然景観）

ランク	基準内容
A	規模的、質的に優れており貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの。
B	Aランクに準ずるもので、都道府県の価値に相当するもの。
C	Bランクに準ずるもので、市町村の価値に相当するもの。
要注目	人間生活との関わりを密接に示すもの、地元の人に愛されているものなど、貴重なもの（A, B, Cランク）に準じて保全に配慮すべきもの。



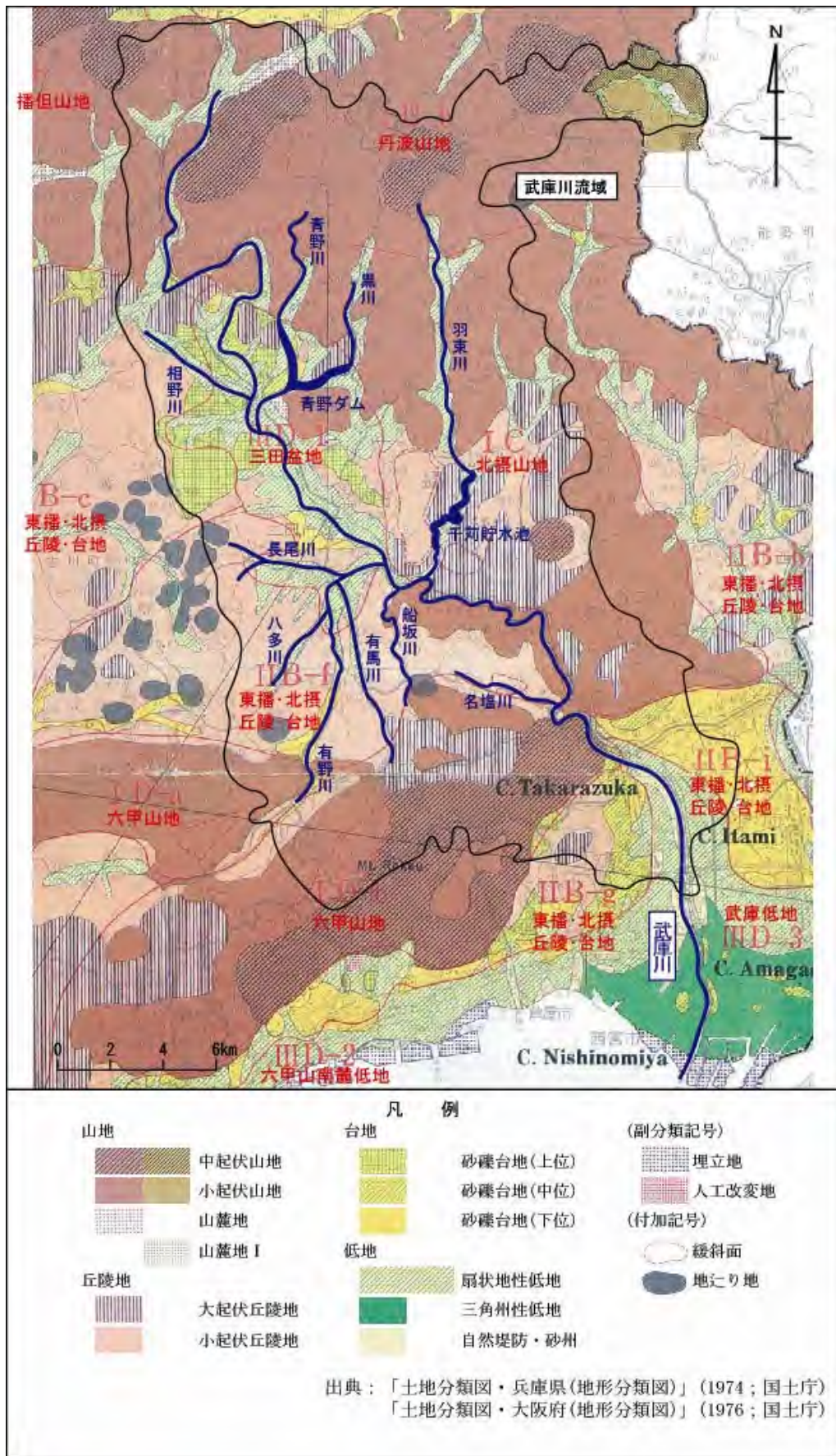


図 1.2.1 武庫川流域の地形分類 (土地分類図)

### 1.3 地質・土壌

#### (1) 地質

武庫川流域は、その全域が西南日本内帯にあり、中生代から新生代の堆積岩類や火山岩類および花崗岩類からなっている。

下流部の武庫低地は未固結堆積物の泥・砂・礫からなる沖積平野で、砂・礫のほか海成粘土などをはさんでいる。武庫川の氾濫原はほとんどこの地層からなっておりこの他に旧河道由来の砂が堆積している。

武庫川の西側に六甲山系の花崗岩類が分布しており、これは中生代白亜紀の貫入生成によるものである。

中流域の三田市域と篠山市域南部の丘陵地および山地は、流紋岩質凝灰岩・凝灰角礫岩を主体とする火山岩類が分布している。この地層は中世代白亜紀のもので、有馬層群と呼ばれ、三田盆地の東側から北摂丘陵につながり、武庫川峡谷はこの流紋岩類が浸食されてできたものである。一方、三田盆地の西側は、新生代古第三紀の地層（神戸層群）が分布し、礫岩・砂岩・泥岩などからなる。この地層には動植物化石が多く見られる。

上流域の篠山市周辺には、チャートや砂岩、泥質岩が分布し、泥質岩は頁岩、粘板岩を主体とする。これらの地層は「丹波層群」に相当する中生代の地層である。

兵庫県内の活断層は、主に六甲と淡路島を結ぶ変動帯に集中しており、武庫川流域には、六甲－淡路島断層帯、有馬－高槻断層帯が存在する。

「改訂・兵庫の貴重な自然―兵庫県版レッドデータブック―（2003;兵庫県）」における武庫川流域における貴重な地質は、次表に示す 11 箇所である。



図 1.3.1 蓬萊峡



表 1.3.1 武庫川流域の貴重な地質

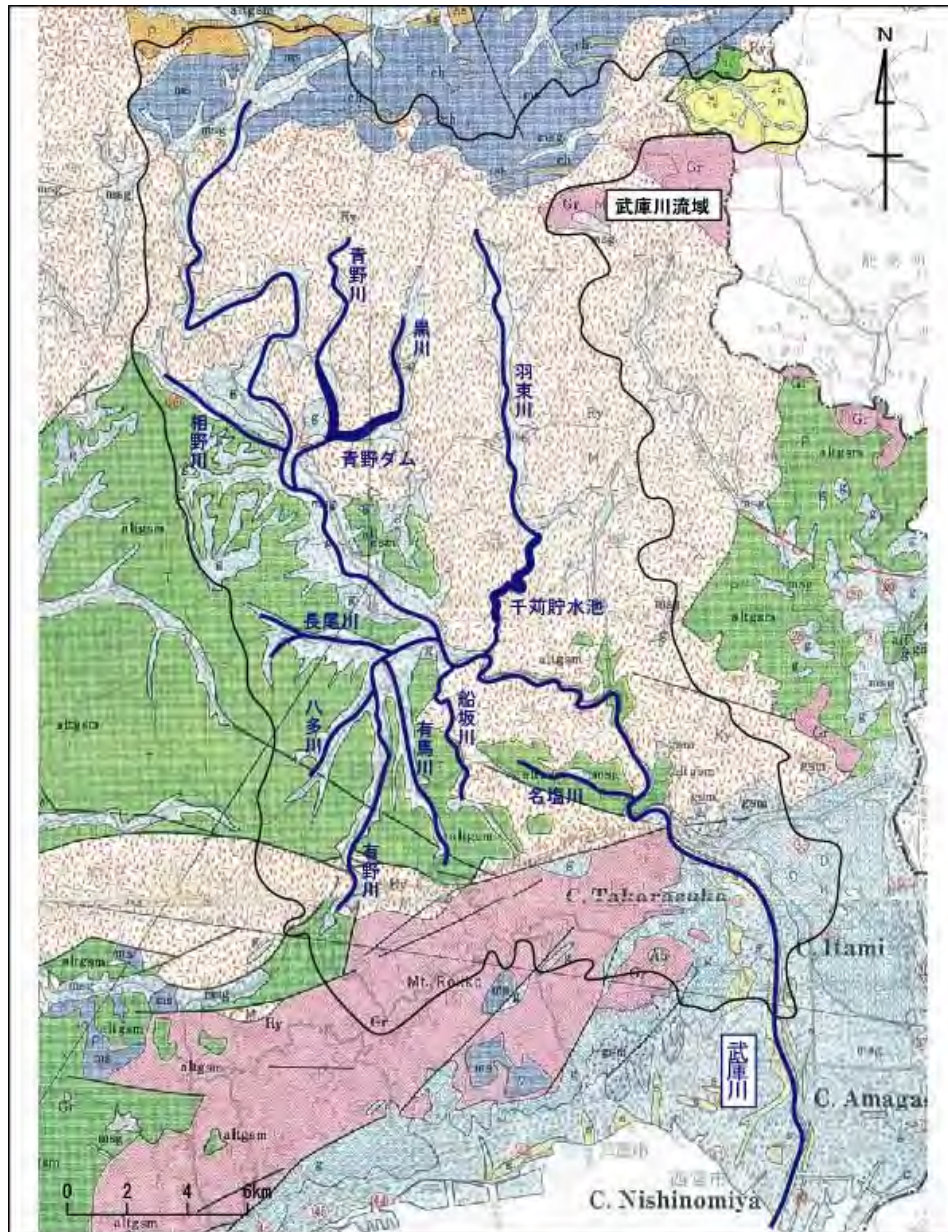
河川名	所在地	通称名	分類区分	ランク	概要・特徴
船坂川	神戸市北区道場町生野	鎌倉峡 百丈岩	岩石、河食	B	有馬層群中の玉瀬結晶質凝灰岩、河食（鎌倉峡百丈岩）
有馬川	神戸市北区長尾町上津		地層、化石	B	神戸層群吉川累層中のアミノドン類の化石
有馬川	神戸市北区有馬町	有馬温泉	温泉	注	有馬層群中の含 Fe-Na-HCO <sub>3</sub> ・Cl 泉（有馬温泉）
船坂川、 太多田川	西宮市山口町船坂周辺	白水峡、 蓬莱峡、 六甲断層	岩石、断層； 風化、 浸食	A	有馬層群、「六甲花崗岩」および段丘層を切る断層（六甲断層）風化・浸食（白水峡、蓬莱峡）
仁川	西宮市 <sup>かぶとやま</sup> 甲山	甲山	岩石、浸食	A	甲山安山岩、侵食火山地形（残丘）
武庫川	宝塚市・西宮市境（武庫川）	武庫川峡谷	岩石；河食	C	有馬層群中部の玉瀬結晶質凝灰岩、長尾山流紋岩溶岩河食（武庫川峡谷）。
天王寺川	伊丹市 <sup>こやいけ</sup> 昆陽池周辺		地層	B	低位段丘層（伊丹礫層）
僧川	宝塚市玉瀬南方 1km 付近	十万辻断層	地層、断層	B	丹波層群と有馬層群の武田尾火砕岩類および僧川凝灰岩質泥質岩層、断層（十万辻断層）
武庫川	宝塚市湯本町	宝塚温泉	断層、温泉	注	「六甲花崗岩」中の断層に沿う Na-Mg(Ca)-Cl 泉（宝塚温泉）
	篠山市後川奥		岩石	B	佐曾利含異質礫流紋岩質溶結凝灰岩
	篠山市後川新田	籠坊温泉	温泉	注	籠坊安山岩中の Co-Na-Cl(籠坊温泉)

出典：改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—（2003；兵庫県）



図 1.3.2 武庫川流域付近の活断層（兵庫県の活断層 平成 17 年 3 月発行）





凡 例

未固結堆積物	固結堆積物	火山性岩石
mpsc 泥・砂・礫	aligam 礫岩・砂岩・泥質岩互層	As 安山岩類
s 砂	ss 砂岩	Rs, Rv 流紋岩類
h 段・丘・礫	ms 泥質岩	深成岩類
固結～半固結堆積物	ch チャート	Gr 花崗岩類
gan 礫砂泥		

出典：「土地分類図・兵庫県(表層地質図)」(1974；国土庁)  
「土地分類図・大阪府(表層地質図)」(1976；国土庁)

図 1.3.3 武庫川流域の表層地質図 (出典：土地分類図)



## (2) 土壌

武庫川流域の表層土壌はそのほとんどが褐色森林土壌と未熟土で形成されている。山地地形、すなわち丹南山地、播但山地、北摂山系の一部、六甲山は未熟土である。特に六甲山は地質が花崗岩類であり、砂質、砂礫質の粗粒残積性未熟土壌となっている。また、六甲山の一部と武田尾峡谷付近は基岩が露出し、岩石地となっている。

褐色森林土壌は、ほとんどが乾性褐色森林土壌であり、山地と河川の氾濫原を除くほとんどの地に分布している。乾性褐色森林土壌は尾根筋、山頂緩傾斜面、急斜面上部など、乾燥を受けやすい所に分布するため、流域北部の大部分を占める壮年期末地形の山地や、起伏量の小さい丹波老年期山地の斜面上部から尾根筋にかけてまとまって分布している。

武庫川上流の低地は生産力のある細状灰色低地土壌で、三田盆地は生産力の高い灰色低地土壌によって占められ、一部に生産力のやや低い粗粒灰色低地土壌がある。

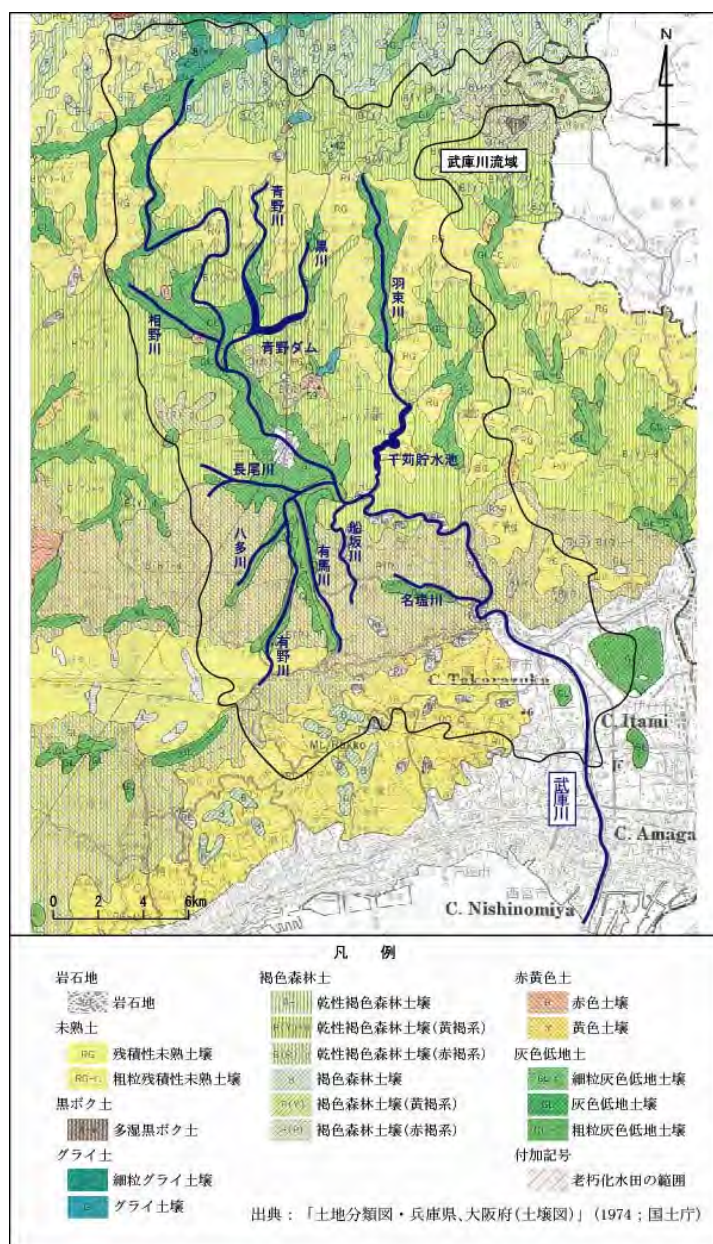


図 1.3.4 武庫川流域の土壌図 (出典：土地分類図)

## 1.4 気候・気象

武庫川流域は兵庫県の南東部、丹波山地を北限として瀬戸内海まで広がっており、全域が瀬戸内気候区に属する。「日本地誌 14 巻 1973」によると、気候区分をさらに細分化した場合、武庫川流域は 5 つの地域に区分できる。また、下流部は阪神間の市街地にあり、大都市特有の都市気候の特徴も現れる。冬季は少雨・多照が特徴だが、梅雨期には大阪湾を北上する暖湿気流と六甲山地の影響で、局地的な大雨が降る。

武庫川流域における雨量観測所の計測結果によると、近年 10 年間では 50mm を上回る降雨の回数は増加傾向がみられる。また、名塩観測所における年最大の 1 時間雨量をみても同様の傾向がみられる。

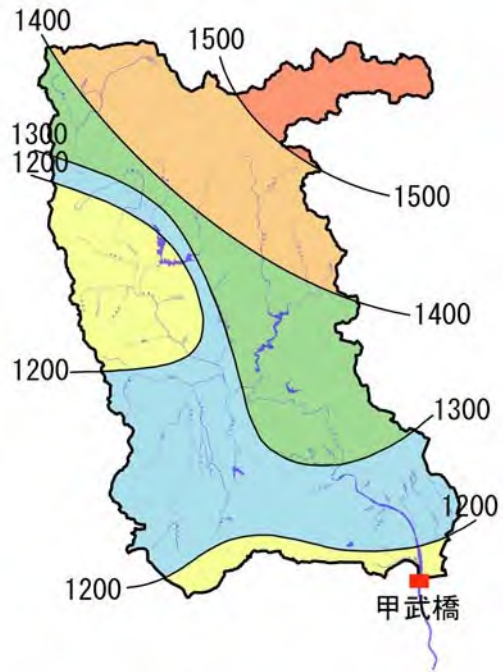


図 1.4.1 流域の年間平均雨量分布  
(2000～2006 年)

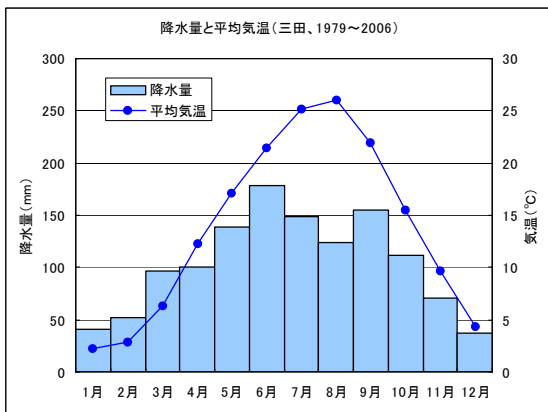
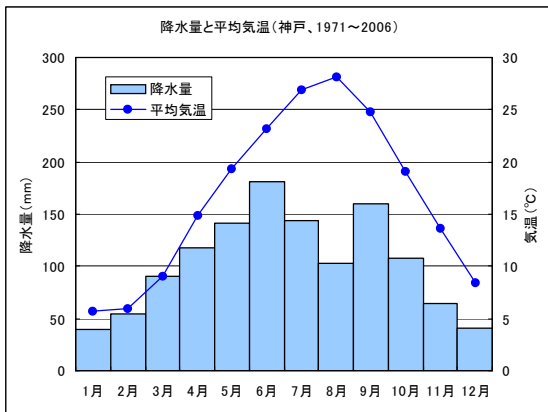


図 1.4.2 気温、降水量の季節変化 (平年値)

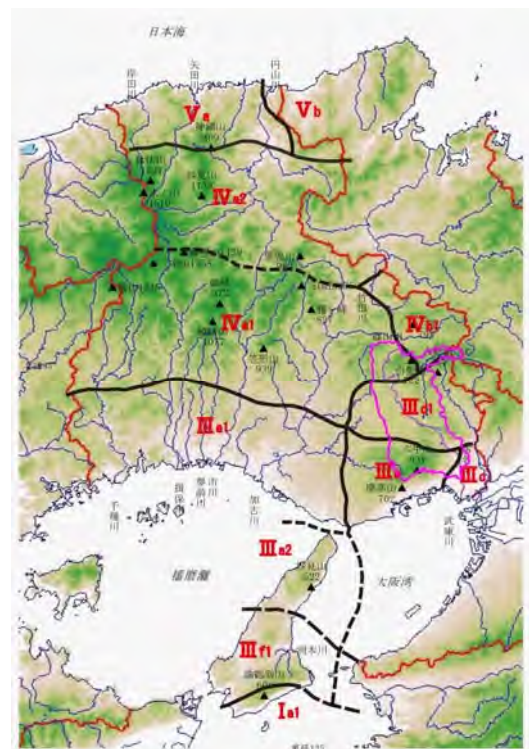


図 1.4.3 兵庫県の気候区分と武庫川流域  
「日本地誌 14 巻 1973」

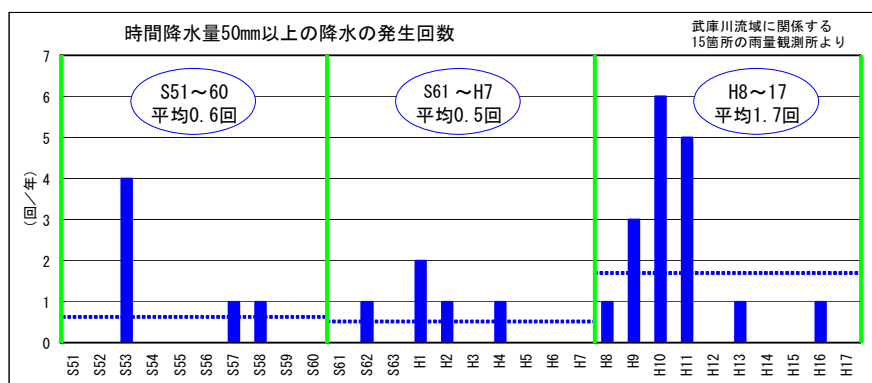


表 1.4.1 武庫川流域の気候の特徴

番号	特徴
I <sub>a1</sub>	南海気候地域。淡路島南端とその沖合の沼島。県下では冬最も温暖で、気温の年較差が小さく海洋的な特性を持つ。
III <sub>a1</sub>	典型的な瀬戸内海気候地域。姫路平野海岸部と家島諸島。年降水量・降水日数の少ないことが特徴である。また冬の降水量も著しく少ない。冬は温暖で夏は暑く、年平均気温も比較的高い。
III <sub>a2</sub>	淡路島北部。III <sub>a1</sub> と特徴は似ているが降水量はそれより多く、また集中的に降る傾向がある。
III <sub>b</sub>	六甲山地並びに神戸付近。III <sub>a</sub> の地域に比べると暖候季の降水量が多いことに特徴がある。とくに梅雨末期に集中豪雨が起りやすく、日降水量の記録にもかなり大きな値で現れている。このほか季節によって局地風が発生する。
III <sub>c</sub>	県南東部の大阪平野に続く地域。夏はかなりの高温になる。暖候季の降水量はIII <sub>b</sub> よりは少な目であるが、梅雨季に大雨が降りやすいことはIII <sub>b</sub> と同様である。
III <sub>d1</sub>	六甲山地以北の武庫川・猪名川上・中流域。寒暖の差がIII <sub>a</sub> ～III <sub>c</sub> に比べると大きくなり、やや内陸的な特徴を持つ。ときに著しく高温の記録が現れる。暖候季の降水量が多い。
III <sub>f1</sub>	淡路島中・南部。気温の条件はIII <sub>a</sub> と同様であるが、降水量は多目となる。とくに暖候季の降水量が多い。年間を通して風が強いが、冬は季節風が連日のように吹きわたる。
IV <sub>a1</sub>	内陸的な気候地域。姫路平野北部と播但山地の一部。気温は各季節ともIIIの地域に比べ低くなる。降水量は冬季と年総量でIIIの地域より多くなる。
IV <sub>a2</sub>	但馬南部の山地と盆地。内陸的な気候地域であるが、日本海岸気候に近い特性が現れる。すなわち年間を通じて県下では最も低温な地域で、しかも極端な高温と低温が現れがちである。降水量は冬に多く、かなりの積雪を見る。9月に降水量が多いことも特徴の一つである。また霧も多い。
IV <sub>b1</sub>	篠山盆地。典型的な内陸盆地の気候で気温の年較差は大きく、特に冬の寒さはIV <sub>a2</sub> と同様にきびしい。年間を通じて風が弱く、霧の発生が多い。
V <sub>a</sub>	日本海沿岸地域。典型的な日本海岸気候地域で冬の気温は内陸より高い。季節風が海岸沿いでは強く、また山地にはいと雪が深くなる。冬の降水量が特に多く、年間水量とともに兵庫県では最多地域である。
V <sub>b1</sub>	奥丹後半島に接する地域。V <sub>a</sub> より夏は高温であるが、降水量はあまり変わらない。

※「日本地誌 14 巻 1973」より

※※太枠は武庫川流域に關係する気候区分



※日雨量 60mm 以上のデータから算出

図 1.4.4 武庫川流域における時間 50mm を上回る雨量の整理 (平年値)

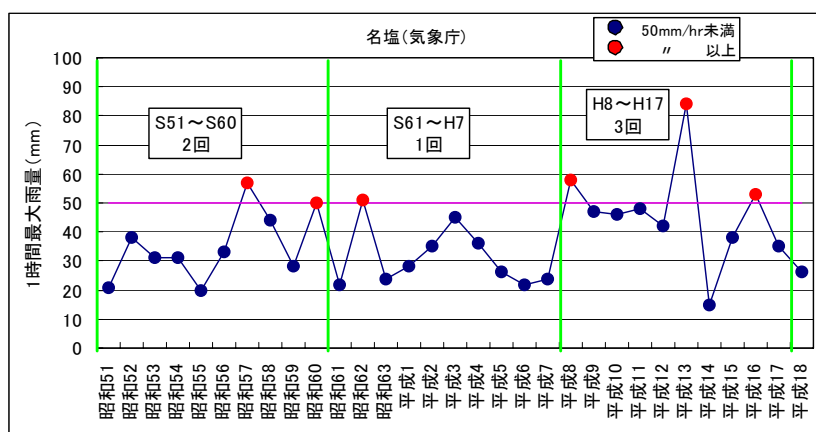


図 1.4.5 名塩雨量観測所における年最大1時間雨量

## 1.5 歴史・文化

「武庫」の由来は、難波の都から見て「向こう」であったからといわれており、昔、有馬川合流点より上流は三田川、下流は武庫川と呼ばれていた。また、生瀬橋付近や仁川合流点付近では、宝塚、西宮の各市の境界が複雑に入り組んでおり、昔は武庫川の流れがたびたび変化していたことがうかがわれる。

武庫川は昔から「暴れ川」として知られ、武庫川峡谷の部分を除くと川の流れが定まらず、たびたび水害をもたらした。特に武庫平野の中の武庫川は洪水により流れをしばしば変え、大きな災害をもたらしていた。

三田の相野地区には、旧石器時代の遺跡がみられ、三田市、西宮市仁川の高台地区には弥生時代の、宝塚市の長尾山系、伊丹市、尼崎市には古墳時代の古墳が発見されている。

古代になると、流域各地に寺社領などの荘園が見られるようになり、平安後期には海岸近くの西宮市鳴尾地区にまで存在した。中世にはこれらが川沿いにまで増えていき、農耕が行われていた。

7 世紀には僧行基そうぎょうきが現れて、伊丹の昆陽池を、三田の福島大池を築造し水路を整備して灌漑と治水を行った。

一方、篠山地区は 12 世紀後半の源義経の三草攻めにより村や寺を焼き払われ大きな被害を受けた。

武士の台頭とともに流域には多くの山城（砦）が築かれるようになった。16 世紀の後半には荒木村重の乱により、北摂一帯は戦乱に巻き込まれて村や寺が焼き払われた。

時代が下り、人々の往来が増えるようになると、流域内には幾つかの街道ができた。江戸時代後期には武庫川の上流から南北に「くらがり街道（丹波街道）」、篠山市の東西に「京街道」「播磨街道」が存在した。「くらがり街道」は生瀬あるいは小浜で「西宮街道」につながり、小浜は「京伏見街道」、「有馬街道」ともつながる交通の要衝であった。また西国 33 箇所巡礼の巡礼街道が、



図 1.5.1 流域内の歴史・文化的な施設の位置

宝塚市の中山寺、三田市の花山院と箕面市の勝尾寺、加東市の清水寺、宮津市の成相寺とつながる巡礼道ができてきた。沿道には宿場町もでき、古市、藍新町、道場川原、生瀬、小浜、西宮、昆陽などは大いに賑わったという。また有馬街道は、日本書紀にも記され、12世紀に再興された有馬温泉への道であり、豊臣秀吉も通ったことで有名である。このように多くの街道が武庫川を通っていて、生瀬橋より下流には近代に橋が架けられるまで、街道の渡しが多く存在した。宝塚市役所の近くには西宮街道とその伊子志の渡し、仁川合流点付近には西国街道とその髭の渡し、旧国道武庫川橋付近には中国街道とその西新田の渡し、上武庫橋付近には津門の中道とその守部の渡しがあった。武庫川は、氾濫により流路を変え、村を分断することもあった。武庫郡と川辺郡の境界、枝川とその氾濫でできた支流の申川の位置からもこのことをうかがい知ることができる。河道が安定しないことから、上流も含めて水争いが絶えず、流域内各地に水争いの証が残されている。また、水を確保するために、多くの「井（ゆ）」が設けられていた。江戸時代には尼崎藩が、幕府から摂津国有馬・武庫・川辺の3郡地区の土砂留大名を命ぜられ、山の管理や河川の普請にあたった。

明治になり、三田盆地周辺の段丘は、入植者などによって多くが開拓された。この当時に母子大池などが作られ、その他多くのため池があったが、現在では埋め立てられているものも少なくない。また、武庫平野南部では豊臣秀吉の頃に連続堤ができ、江戸時代には除堤と連続堤の間で新田開発が盛んに行われ、現在でも「〇〇新田」の地名が残っている。

武庫川流域圏の人口が増加すると、水道用水の確保が急務となり、羽束川の千苺溪谷に神戸市が千苺ダムを築造したのをはじめ、現在までに流域内の支流に5つの利水ダムが建設された。近年では、武庫平野の住宅地化、南部の工業用地化、北摂・北神の丘陵地における住宅開発により流域の様相は一変した。



宝塚市中山荘園古墳



昆陽池



福島大池



中山寺



有馬温泉



髭の渡しの跡

図 1.5.2 流域内の歴史・文化的な施設



## 1.6 河道の特性

### (1) 河道形態

武庫川は、中流部の武庫川峡谷において最も河床勾配が急で、その上流部では逆に勾配が緩やかになるため、中流部に Aa 型、上流部に Bb 型がみられるという特徴的な河川である。河川形態から、本川は次の 4 つに大きく分けることができる。

#### 河口部（河口～潮止堰）

感潮区間であり、河川の形態は Bc 型である。この区間は汽水または淡水で、瀬や淵はみられず、ほとんど流れはない。

#### 下流部（潮止堰～名塩川合流点）

河川形態は Bb、Bc、Bb-Bc 型の 3 つであり、瀬・淵が現れ、低水路に砂礫地や中洲がみられる。堰や床止めが多数あり、湛水域を伴う。宝塚市の観光ダムより上流側では井堰がなく、河道は自然に蛇行し、瀬・淵が増える。この区間の河床勾配は下流部の中では急になっており、中流部からの移行部分とみられる。

#### 中流部（名塩川合流点～船坂川合流点）

河川形態は Aa、Aa-Bb 型の 2 つで、渓流域に特徴的な形態となっており、大きな瀬・淵が現れる。この区間の上流付近では河床勾配が緩くなっており、上流部からの移行部分とみられる。

#### 上流部（船坂川合流点～上流端）

河床勾配が緩く、小さな瀬・淵が連続して現れ、河床には小規模な砂地や砂礫地が形成されている。河床形態は Bb 型であり、一般の河川では中流域にみられる形態となっている。

— 参 考 —

1つの蛇行の中に、多数の瀬と淵が交互に出現するのをA型、瀬と淵が1つずつしか存在しないものをB型とする。また、滝のように流下するのをa型、落ち込まずなめらかに流れ込むもののうち波立っているタイプをb型、波立たないタイプをc型とする。この2種類の特徴は関連しており、A型はa型と、B型はb型とc型にみられるので、両者を組み合わせてAa型・Bb型・Bc型という3種類に区分可能となる。

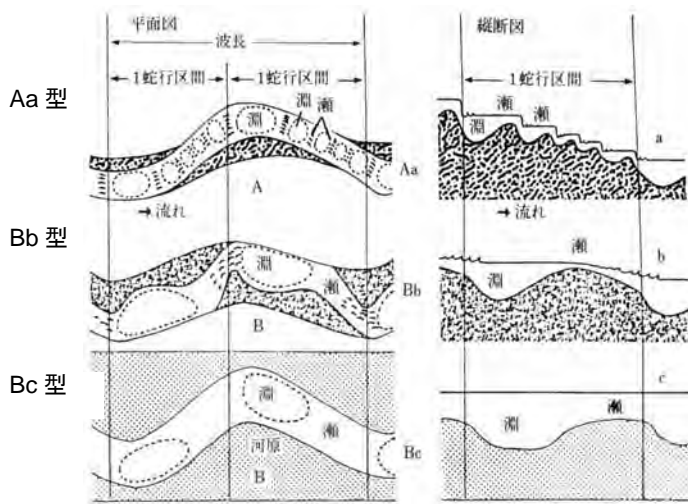


図 1.6.1 河川形態の基本的な3型の模式図  
出典：水辺の環境調査（1994；（財）ダム水源地環境整備センター編）

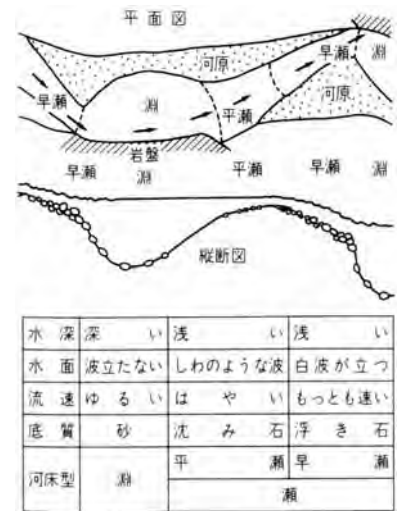


図 1.6.2 中流域の河川形態模式図  
出典：まちと水辺に豊かな自然をⅡ（1992；（財）リバーフロント整備センター編）

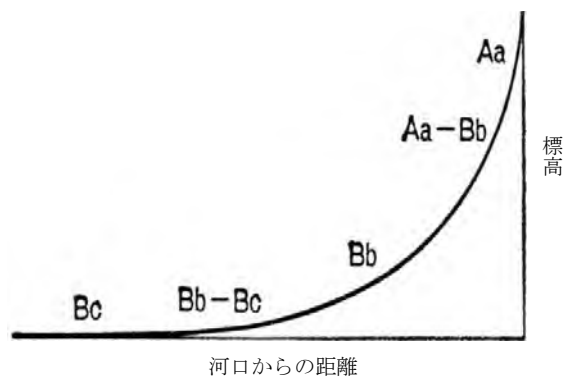


図 1.6.3 河川形態の配列（仮想図）  
出典：河川の生態学（1993；水野・御勢）

## (2) 瀬・淵の現状

本川区間における瀬、淵、湛水域の確認箇所数は下表のとおりで、淵の箇所数は、蛇行の水衝部が深掘れして形成される M-1 型の割合が高い。なお、湛水域については、ほとんどが床止等によるものである。

表 1.6.1 水域区分の内訳（箇所数）

河川名	瀬	淵								湛水域
		M-1	M-2	MD	MR	MS	S-1	S-2	その他	
武庫川	129	67	31	3	11	8	13	28	13	28

【参考】淵の区分〔河川水辺の国勢調査マニュアル（案）（河川調査編）による〕

M-1：蛇行の水衝部が深掘れして形成される淵。

M-2：砂礫堆により流路が蛇行し、側方に形成される淵。

MD：複合型。堰直上が深掘れしたD型淵とその上流の屈曲部に形成されたM型淵が連続したもの

MR：複合型。岩等の周りに形成されるR型淵が蛇行部に位置し、M型淵と同所にみられるもの

MS：複合型。蛇行部に形成されたS-1型淵で、M型淵と同所にみられるもの

S-1：河床に露出する岩盤等の下流側が深掘れしたもの。

S-2：堰や床止等の下流側が深掘れしたもの

武庫川本川の瀬、淵、湛水域の面積割合を縦断的に大きく5つの区間で見ると、それぞれの面積割合の傾向は次のとおりである。

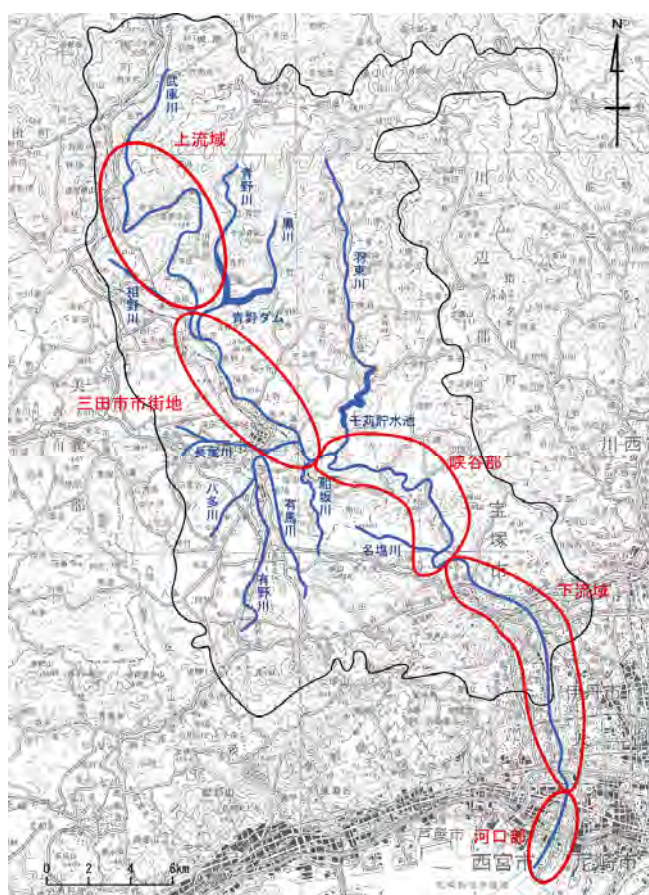


図 1.6.4 瀬・淵・湛水域の現状把握の区分図



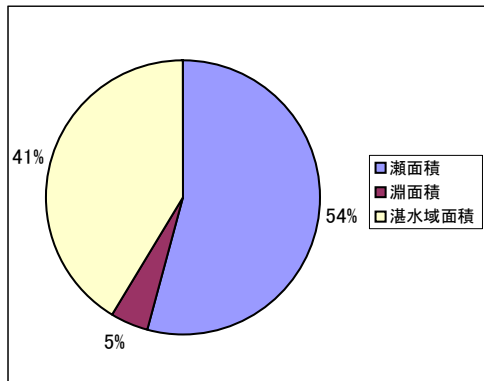
### ①河口部

感潮域であり、水の流れのほとんどない区間が連続する。



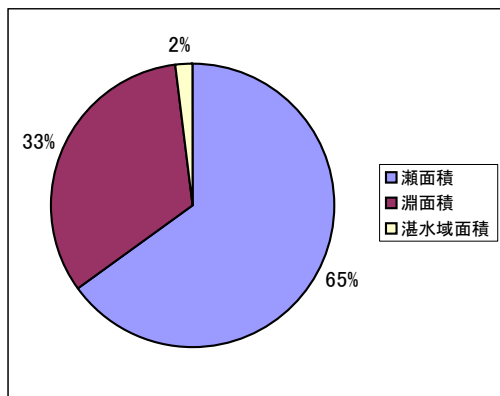
### ②下流部

確認された淵のほとんどが堰の下流側に形成される S-2 型であり、水面に占める淵の面積割合は 5%程度である。この区間は、床止等の上流部に形成される湛水域の占める割合が 41%と大きいことが特徴である。



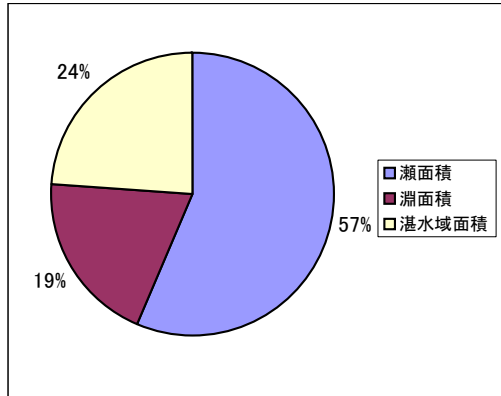
### ③中流部（峡谷部）

武庫川峡谷の区間である。蛇行を繰り返しながら流下する区間であり、水衝部には M-1 型の淵が多く存在している。また、河床には岩盤の露出がみられ、その下流側には S-1 型の淵も形成されている。

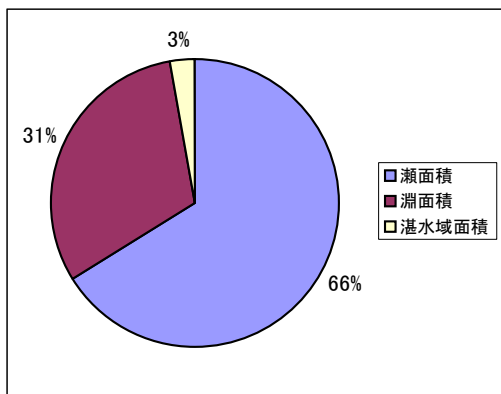


#### ④上流部

三田市街地を流れる区間では、上流域にありながら、河床勾配が小さいことから湛水域の占める割合が大きくなり、24%を示している。これは、床止め等が多く、その上流側に湛水域が形成されるためである。また、河床は平坦で瀬が存在するのは、砂礫地によるものが大部分である。



また、三田市街地より上流域の区間では、淵の占める割合は31%で、その多くがM-1及びM-2型である。大きな蛇行のみられる藍本地区周辺あいにもとに特に多くの淵が存在している。



## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2.1 流域の自然環境

武庫川流域の地形は、平野から峡谷へと様々の変化をみせ、また武庫川自体も、都市河川から自然河川へとその姿を変えるため、地域によって特徴のある自然環境と景観を示している。

流域には、武庫川峡谷、<sup>ほつかがわ</sup>羽東川溪谷、<sup>ほうらいきょう</sup>蓬莱峡等の景勝地や有馬富士、羽東山といった地域を代表する山々等があり、北に猪名川溪谷県立自然公園、南に瀬戸内海国立公園があり豊かな自然に恵まれた地域となっている。

植生は、平野部の住宅地と、三田盆地付近の農耕地を除けば、アカマツ林や落葉広葉樹が支配的である。上流部ではコナラ林や、スギーヒノキ植林もみられる。篠山地区ではオグラコウホネやナガエミクリなどの水生植物の生育が確認されている。

鳥類は、下流部の水辺周辺ではカモ類やシギ類、ユリカモメなどの水鳥の飛来が多く、市街地に近接した手近な探鳥地となっている。三田市周辺や上流部ではケリ、スズメ、キジバト等がみられ、農耕地の代表的な生息形態となっている。

魚類は、ハゼ、オイカワ、ヨシノボリ等が生息するほか、清流を好むアユ等もみられる。

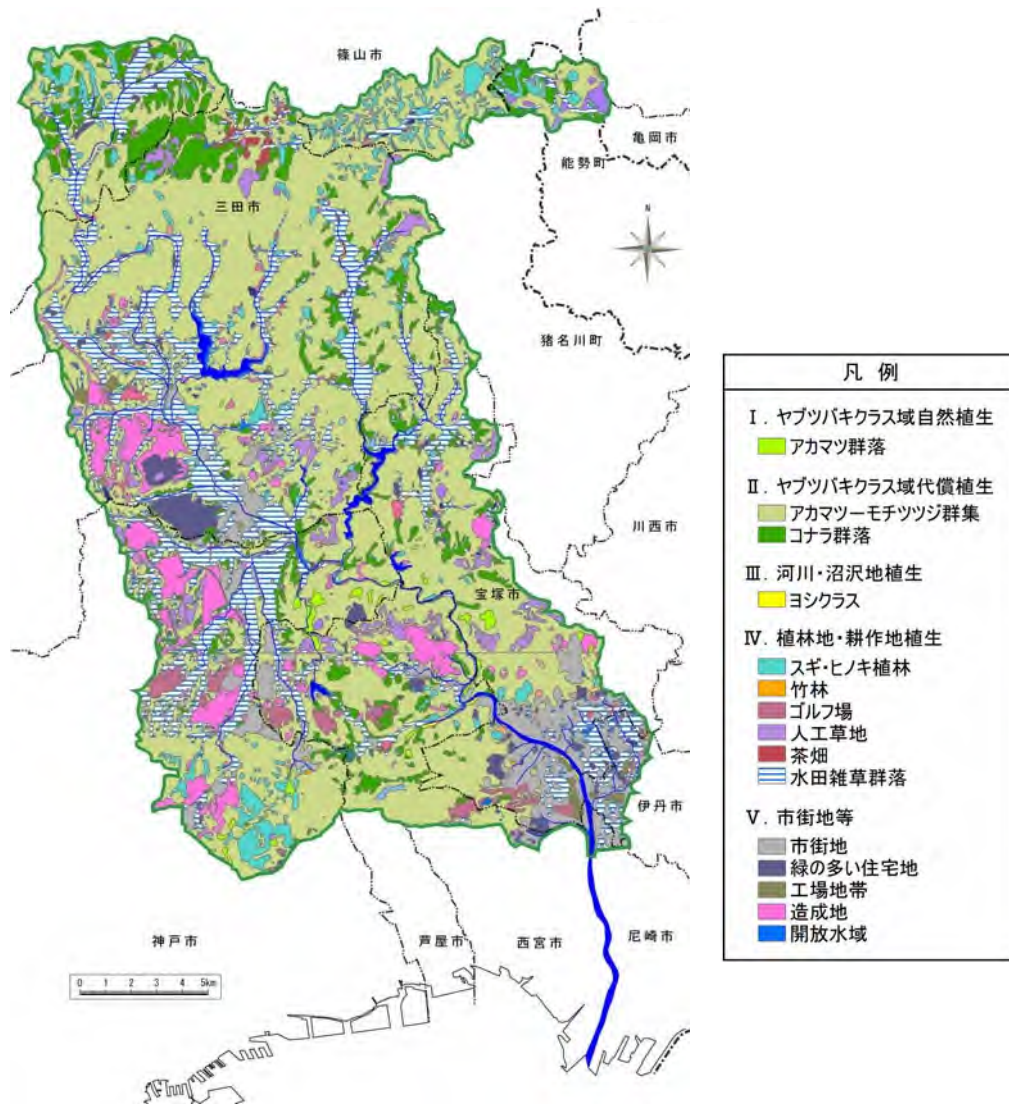


図 2.1.1 武庫川流域の植生分布

出典：自然環境保全基礎調査（環境庁）



## 2.2 河川の自然環境

### (1) 区間毎の自然環境

武庫川を地形、勾配、河川形態、周辺地域等の特徴をもとに、大きく河口部、下流部、中流部、上流部の4つの区間に区分し、それぞれの環境について整理する。

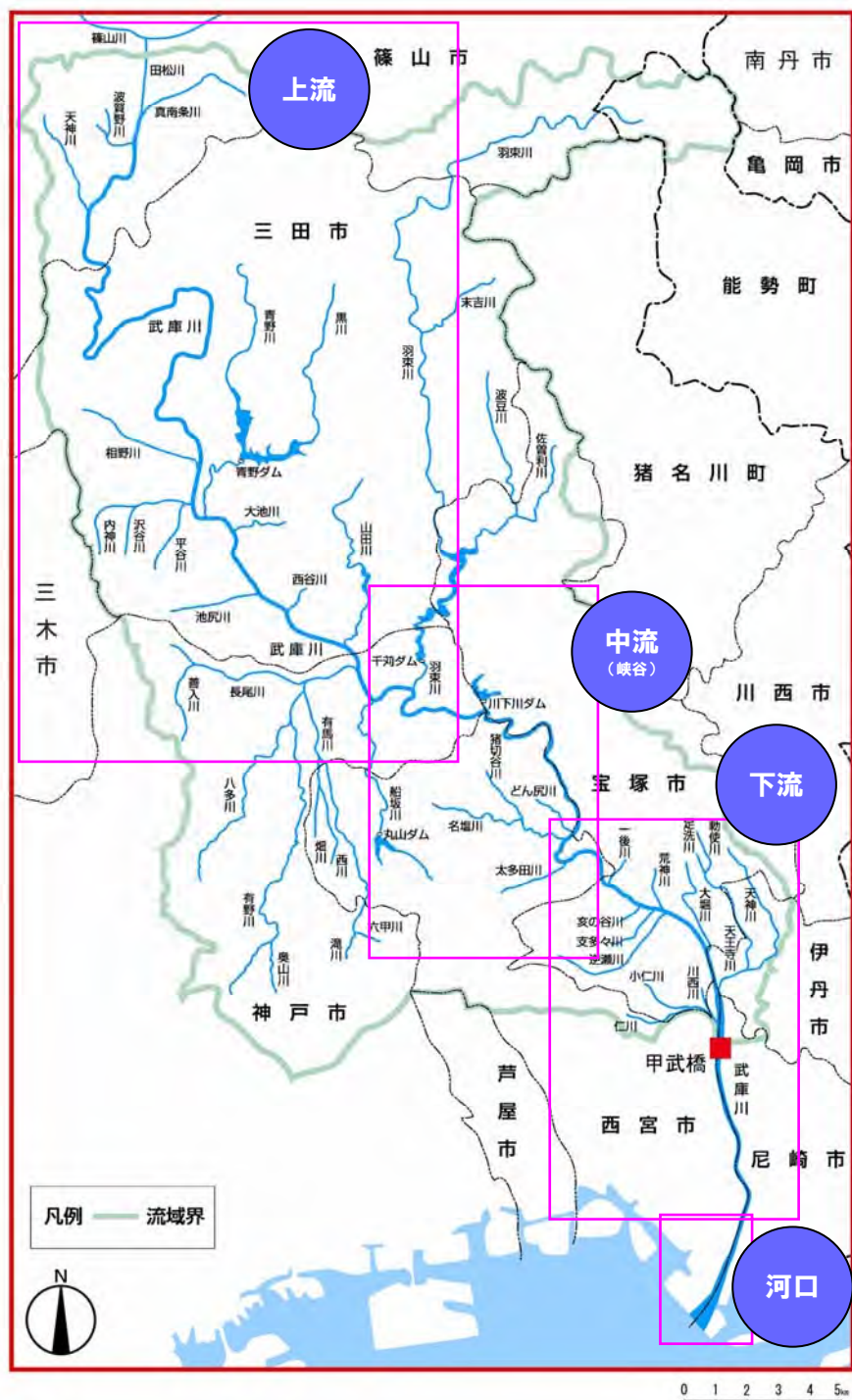


図 2.2.1 環境整理のための区間分割

## 1) 河口部の環境

武庫川の河口周辺は埋立地で、その土地利用は工場、住宅団地などである。川幅は広く、コンクリートの護岸と堤防が築かれ、南武橋付近から上流には河川敷緑地が整備されている。現在は人工的な環境であるが、戦前には砂浜があり、松の木が生える、のどかな風景が存在した。河口部は汽水域で、植生はあまり発達していない。汽水域を好むボラや、マハゼなどの魚類が生息し、それらを餌とするミサゴ、コアジサシ、カワウなどの鳥類が飛来する。冬季にはホシハジロなどの海ガモ類やカモメ類が越冬地として河口部を利用している。

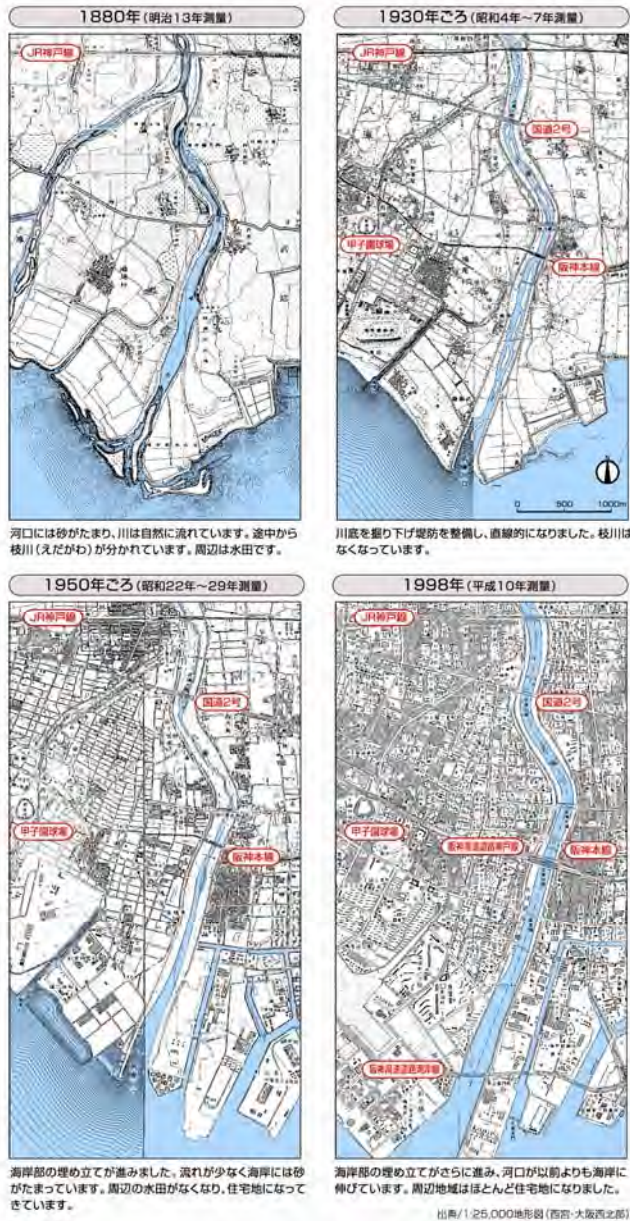


図 2.2.2 武庫川河口部上空より



## 2) 下流部の環境

下流部は宝塚市、西宮市、伊丹市、尼崎市の市街地を流下している。川幅が広く、水辺には河原や草地がある。都市部の中にある貴重なオープンスペースとして、多くの住民にやすらぎと潤いの場を提供している。特に河口から逆瀬川合流点付近は高水敷や護岸が整備され、河川敷緑地やグラウンドとして多くの人々に幅広く利用されている。なお、このような人為的な改変により、高水敷や護岸にはオオアレチノギク・ヒメムカシヨモギ群落など帰化植物の割合が高くなり、ヘラオオバコやギョウギンバなどの耐圧性のある植物の分布が広がっている。

攪乱の多い河原ではヤナギタデやオオクサキビなどが生育する。河原の堆積物は鳥類の休息場、イカルチドリやコチドリなどチドリ類の営巣環境となっている。また、日当たりのよい場所では、カワラサイコが生育している。支流の仁川、逆瀬川ではミヤマアカネが多数見られる。

武庫川やその支流では取水のための井堰や、河床の安定を図るため床止めが多数設置されている。武庫川本川では魚道設置などにより河口から青野川合流点付近までは遡上の連続性が概ね確保されている。しかし、その上流や支川には魚道の備わっていない横断工作物が見られ、魚類の遡上の連続性が確保されていないため回遊性魚類の遡上や降下に影響を与えている。河川改修により、二面張りや、三面張り化された箇所では魚類の生息に必要な瀬、淵が減少するとともに、水の浸透が阻害され、夏季に水温が上昇しやすくなり、低水温を好む水生生物の減少につながり、影響がある。

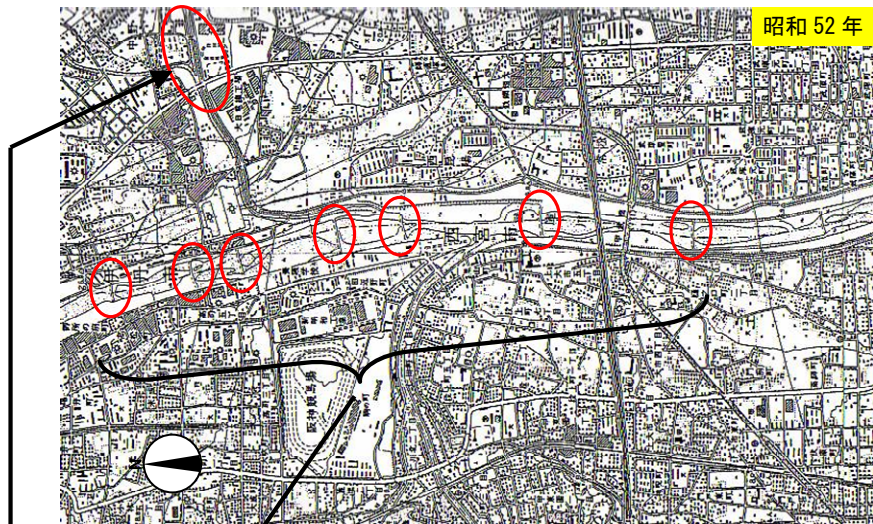


図 2.2.3 甲武橋付近の風景



図 2.2.4 武庫川下流上空より





堰が多数築かれた。  
天神川が直線化された。

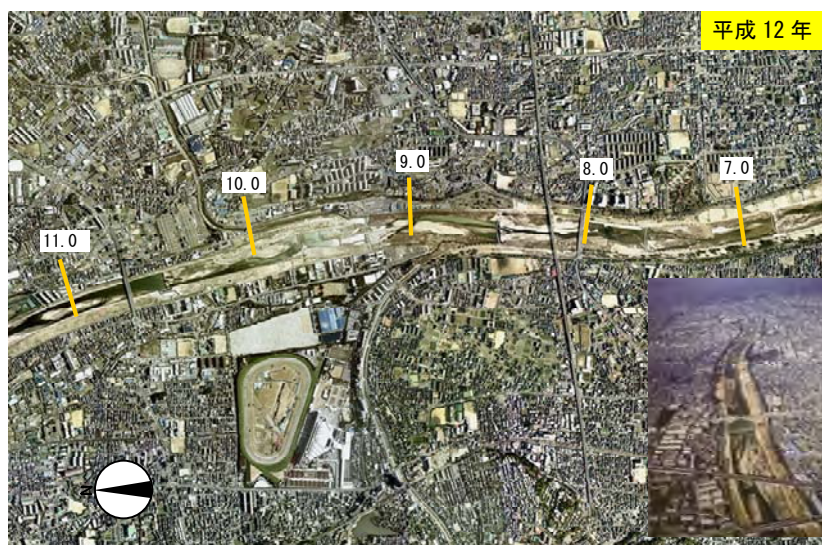


図 2.2.5 武庫川下流部 (7.2~11.1km) の変遷

### 3) 中流部（峡谷）の環境

武庫川は一般の河川と異なり、中流部の勾配が最も急で、峡谷となっている。この峡谷は武庫川峡谷と呼ばれている。河床や露岩部にはツルヨシ群落やカワラハンノキ群落が見られる。岩場にはサツキやツメレンゲ、アオヤギバナが生育している。山地が近いことから一部にはアラカシ群落もみられる。瀬や淵にはオイカワやカマツカ、ヨシノボリ等の魚類が生息し、溪流を生活空間とするカワガラスやヤマセミなどの鳥類、カジカガエルなどの両生類が確認されている。峡谷部の周辺に広がる森林はアラカシ群落でここには、ニホンザルやニホンリスなどの哺乳類、サンバヤハチクマなどの鳥類、樹枝に産卵するモリアオガエルなどの両生類が確認されている。

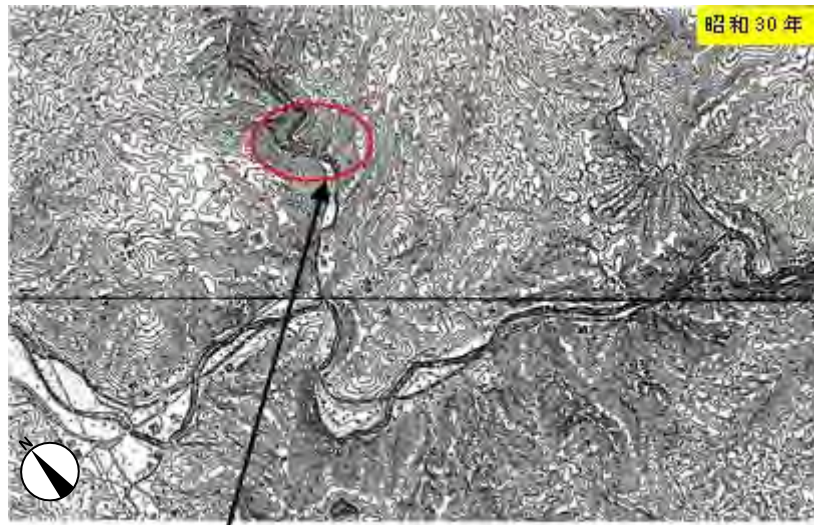
人里から離れ、人為的な改変もされず、河辺は毎年洪水の攪乱を受けているなど、帰化植物群落が広く成立できるような環境が少ないことから、帰化植物は少ない。

#### 武田尾付近

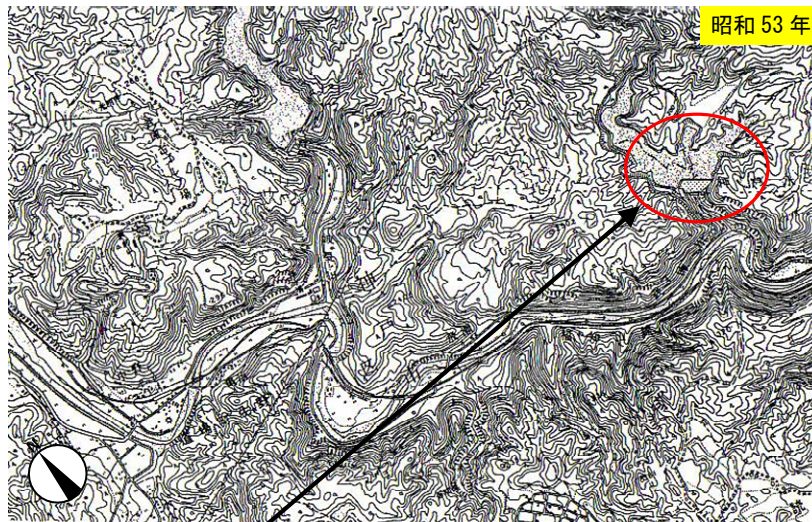


図 2.2.6 武庫川峡谷上空より





羽東川にはすでに千苺ダムが築かれている



川下川ダムが造られた。



図 2.2.7 武庫川中流部 (25.7~32.6km) の変遷



#### 4) 上流部の環境

上流部は神戸市北区、三田市、篠山市に位置し、盆地を大きく湾曲しながら流れている。周辺は三田市の中心部を除いてほとんどが農耕地で、のどかな田園風景がみられる。勾配が緩やかで水もゆったりと流れ、堤防に沿って桜づつみが整備されており、散策道として利用されている。

三田市市街地付近では河岸が整備され、セイタカアワダチソウ群落などの帰化植物群落が帯状に連続している。低水路が狭く、ツルヨシ群集、マコモウキヤガラ群集などの大型の在来多年草が繁茂し、帰化植物の繁茂は目立たないが水中植物のオオカナダモ群落やコカナダモ群落が見られる。河床は平坦であり、魚類が生息するには好ましくない環境となっている。

市街地から上流は緩流性を好むアブラボテなどのタナゴ類や他の淡水魚も数多く生息し、底生動物や、タナゴ類が産卵に利用する二枚貝が多数生息している。特に清流の砂底に生息するトゲナベブタムシは本県では武庫川の上流部でしか確認されていない。水際には、ツルヨシの間など、緩やかな流れの箇所にメダカが生息している。ゲンバイトンボやアオサナエなどのトンボ類も生息し、産卵時に利用する水生植物の生育可能な河床環境がある。特にオグラコウホネやナガエミクリは貴重種である。

また、羽束川上流には特別天然記念物のオオサンショウウオの生息が確認されている。



図 2.2.8 神橋付近（篠山市）の風景

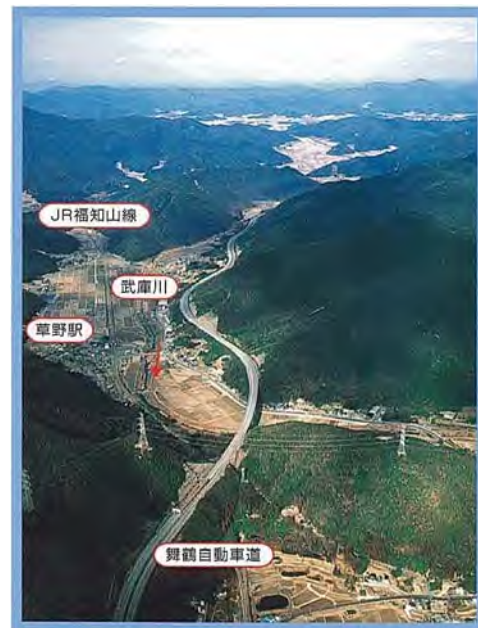


図 2.2.9 武庫川上流部上空より



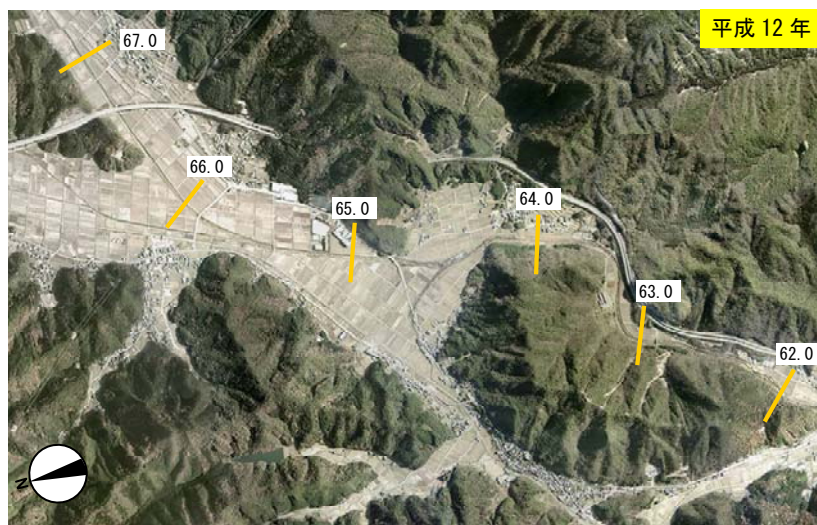


図 2.2.10 武庫川上流部 (63.5~68.9km) の変遷



## (2) 環境に配慮した整備事例

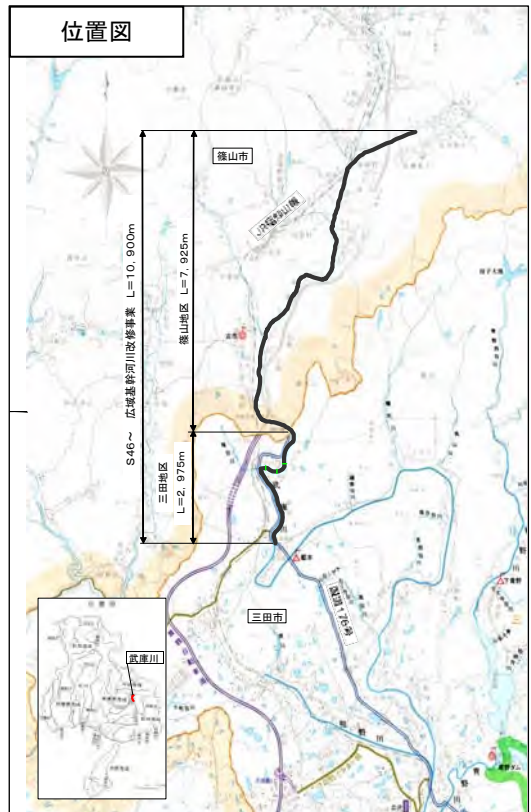
### 1) 日出坂洗いざき（三田市藍本、武庫川本川）



図 2.2.11 日出坂洗いざき

### 2) 上流武庫川工区（篠山地区）

当該工区は貴重な動植物が数多く確認され、良好な自然環境であることから、河川改修による動植物への影響を最小限にするよう、段階的な改修を行っている。





3) 青野ダム多自然型魚道（三田市加茂、青野川）



図 2.2.12 青野ダム多自然型魚道

## 2.3 特徴ある河川景観

### (1) 河川景観

武庫川流域では、「武庫川峡谷」、「蓬莱峡」、「羽束川溪谷」が、「改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—（2003;兵庫県）」において、貴重な自然景観に分類されている。

武庫川峡谷は、都市近郊にあって、約8kmに及ぶV字谷の中、廃線敷きを歩くハイキングコースや、春の山桜、初夏のツツジ、緑したたる夏、さらに、全山が燃え上がる紅葉と、四季折々の姿をみせ、非常に美しい場所として知られる。武庫川峡谷は隆起した山を川が削ることによって形成される先行谷という特徴を持ち、名称のついた瀬・淵が十数箇所ほどみられ、代表的な瀬では、「十国の瀬」「虎が瀬」「車の瀬」「藪の瀬」、淵では「霧池淵」「鯨が淵」などがあげられる。また、「溝滝」「十国の滝」「高座岩」「天狗岩」など、名称のついている滝や岩なども存在する。

蓬莱峡は、支川太多田川の上流に存在し、風化した花崗岩が特異な景観が見られる。

羽束川溪谷は、支川の羽束川上流に存在し、屈曲に富む溪谷と兩岸のコナラ等の広葉樹林・その紅葉が織り成す景観は非常に美しい。

公園や緑地帯としては、武庫川河川公園が下流域の高水敷に広く整備されている他、青野ダム（千丈寺湖）の湖畔に多目的公園が設置されている。その他の貯水池でも、昆陽池公園、瑞ヶ池公園、県立有馬富士公園等が整備され、多数の県民が訪れている。また、羽束川の千苅ダムの堰堤が、国の登録有形文化財に指定されている。

また、下流域とくに仁川合流点より下流の兩岸堤防および高水敷には高木樹が成長し、兩岸の緑の少ない市街地にとって良好な景観を提供している。西宮市側では、良好な景観を保全するため、河川区域を含めて第一種風致地区に指定されている。

河川景観の一部をなす土木構造物等として近代土木遺産がある。武庫川流域では、千苅水源地堰堤、武庫大橋、水管橋の武庫川第一～第三橋梁、逆瀬川床固工群、仁川峡砂防堰堤などが指定されている。



（はんしん圏域ガイドマップ（阪神広域行政圏協議会）流域自治体資料）

図 2.3.1 主要な自然景観と公園・緑地位置図

表 2.3.1 武庫川の貴重な自然景観

河川名	所在地	通称名	分類区分	ランク	概要・特徴	主要な視点場	保全に対する留意点
武庫川	武庫川中流	武庫川 渓谷	渓谷	B	典型的なV字谷峡谷。 JR廃線敷きのハイキングコース。	渓谷沿いの廃線敷	ハイキングコースの管理。周辺植生の回復。
太多田川	裏六甲・ 太多田川 上流	蓬莱峡	山岳景観 岩場	B	花崗岩が風化したマサからなる 特異な景観。白色の岩肌と周囲の 緑とのコントラストが美しい。	車道からの遠望 しるべ岩 屏風岩	展望地点の修景。周辺山林の 保全。砂防工事の際の景観に 対する配慮。
羽束川	羽束川上 流	羽束川 渓谷	渓谷 樹林・紅 葉	C	武庫川の支流、羽束川上流の屈曲 に富む両岸のコナラなどの広葉 樹林。	渓流沿い道路 小柿野外活動セ ンター	渓谷沿いと山腹の紅葉樹林の 保全。道路、河川の改修の際 の景観配慮、川辺林の保全。

出典：改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—（2003；兵庫県）

## 2.4 自然公園等の指定状況

### (1) 自然公園法

武庫川流域には瀬戸内海国立公園、猪名川渓谷県立自然公園、清水東条湖<sup>たちくい</sup>立杭県立自然公園の3つの自然公園が指定されている。瀬戸内海国立公園はその内の六甲山地域が武庫川流域に含まれ、六甲山北側には特別地域が広がる。猪名川<sup>いながわ</sup>渓谷県立自然公園は、武庫川流域の羽束川の源流部と籠坊温泉が公園に含まれ、渓谷美と温泉が有名である。清水東条湖立杭県立自然公園はそのほとんどは加古川流域に含まれているが、武庫川流域では藍本の特異な山容を持つ虚空蔵山が含まれ登山客が多い。

### (2) 近畿圏の保全区域の整備に関する法律等

「近畿圏の保全区域の整備に関する法律」「都市緑地保全法」により、武庫川峡谷を含む西宮市と宝塚市および神戸市の一帯が北摂連山近郊緑地保全区域に、千苺、生瀬の一部が近郊緑地特別保全地区及び緑地保全地区に指定されている。

### (3) 環境の保全と創造に関する条例

兵庫県では、健全で恵み豊かな環境を保全し、ゆとりと潤いのある美しい環境を創造するための施策を推進し、現在及び将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として、「環境の保全と創造に関する条例」が平成8年7月1日に施行された。この条例に基づく指定地のうち、1箇所の自然環境保全地域と3箇所の環境緑地保全地域が武庫川流域内に位置している。自然環境保全地域としては、武庫川の三田市上本庄の駒宇佐八幡神社が指定されている。この神社の社寺林はコジイ林で、環境庁指定の特定植物群落でもある。環境緑地保全地域としては、有馬川支流の有野川上流の神戸市北区有野町下唐櫃の山王神社のカシ林、同西尾の有間神社コジイ林、同八多町の八王子神社のアカガシ林が指定されている。

### (4) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

武庫川流域の内、六甲山、有馬富士、<sup>かぶらいやま</sup>鏑射山には大きな鳥獣保護区が設定されている。その他の住宅地やその近郊は銃猟禁止区域である。山間部の大部分は指定がかけられていない。兵庫県のほぼ全域はメスジカ可猟区域であるが、瀬戸内海側の市街化の進んでいる地域は、メスジカ可猟区域から外れている。千苺貯水池付近は兵庫県内で唯一の鉛散弾規制区域である。



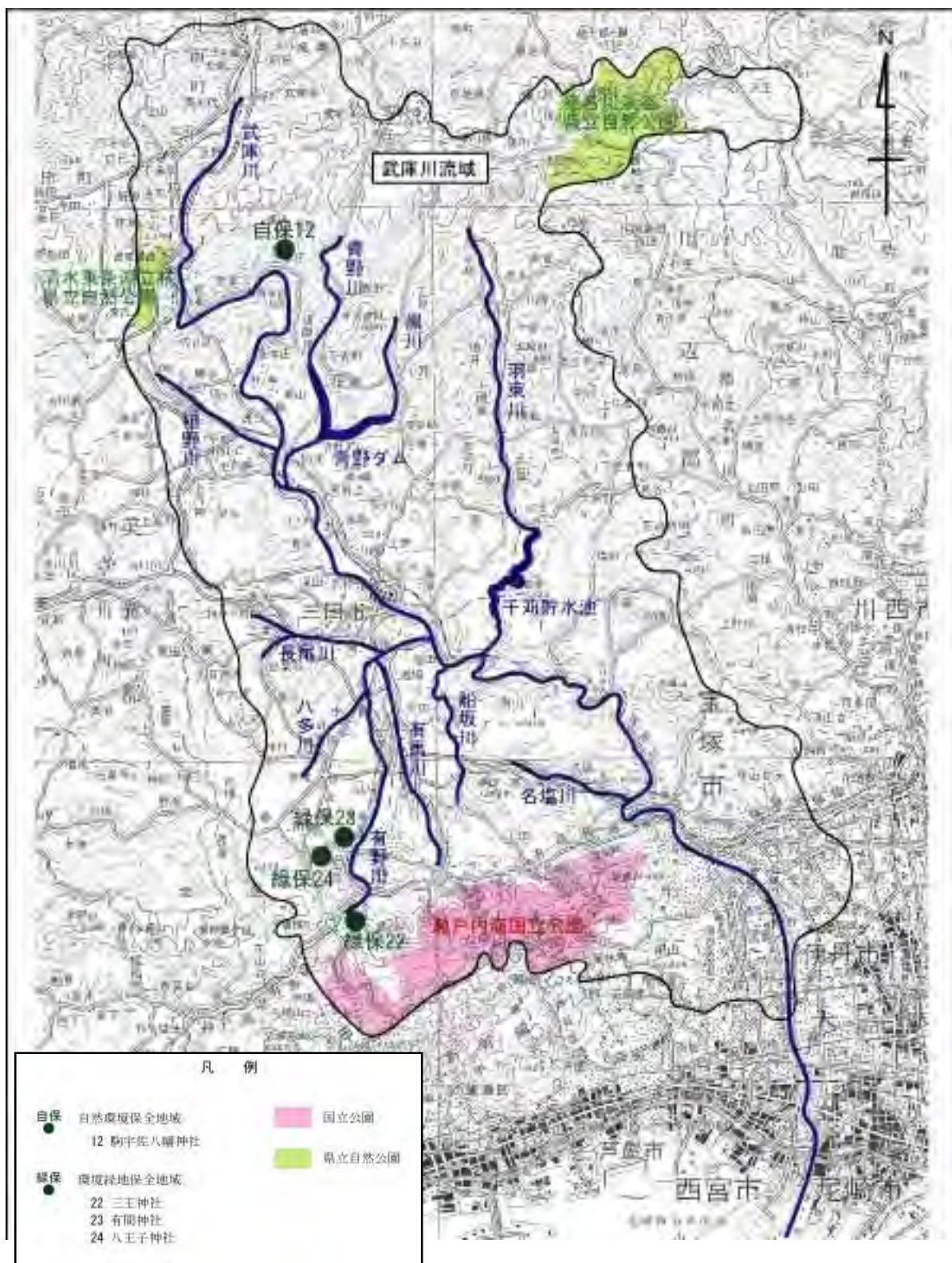


図 2.4.1 流域内の自然公園等

### 3. 流域の社会状況

#### 3.1 土地利用

武庫川流域は上流から山地、盆地、山地、扇状地、低地という地形になっており、山地を除く利用しやすい地形には人が住み、土地を利用してきた。1921年（大正10年）には武庫低地のほぼ全域と三田盆地は農地であり、流域の約18.4%を占めていた。また、市街地は少なく、わずか0.8%を占めるに過ぎなかった。1950年（昭和25年）には臨海部から市街地が増加して2.2%に、1993年には12.2%にまで増加した。そのため特に農地が減少し、1921年には18.4%であったのに対し、1993年には11.6%まで減少している。1993年には武庫低地の宅地は飽和状態となっており、三田盆地や裏六甲の市街化が進行している。

河川改修に伴う沿川の土地利用の変化も見られ、大正時代の武庫川の河川改修で締め切った枝川、申川の廃川敷が宅地等になったことをはじめとして、大正期から昭和初期には、仁川合流点から逆瀬川合流点にかけての無堤地区での築堤に伴い、武庫川沿川の都市的土地利用が進んだ。また近年では、三田市街地周辺での河川改修に伴うショートカットにより、廃川敷の土地利用の変換が行われている。

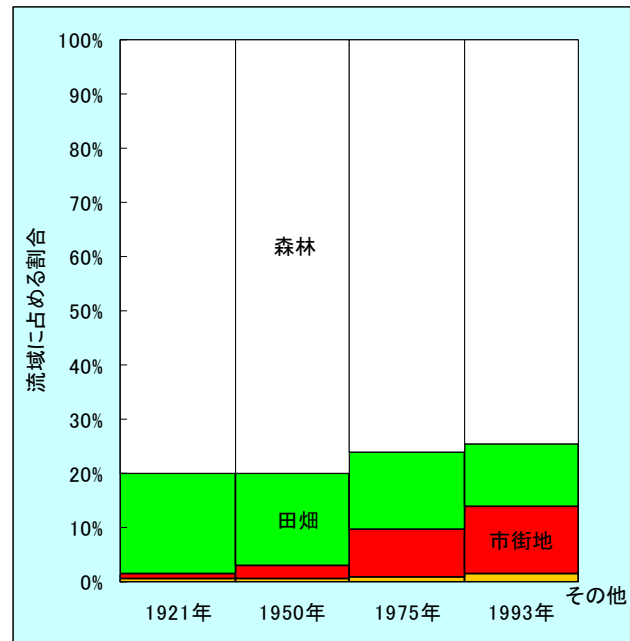


図 3.1.1 土地利用の変遷



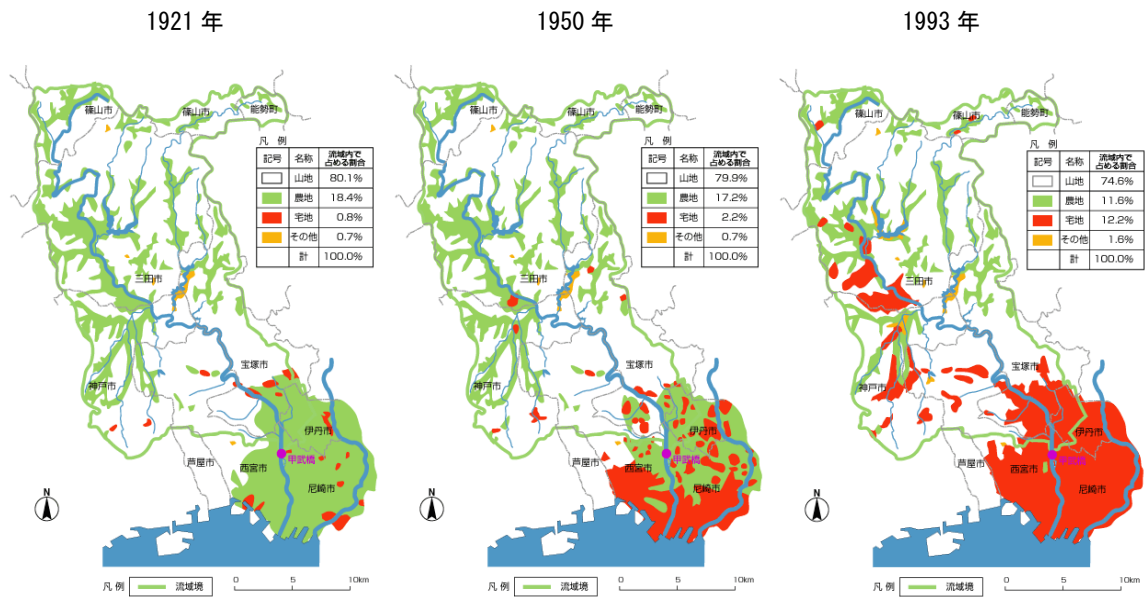


図 3.1.2 流域土地利用の状況

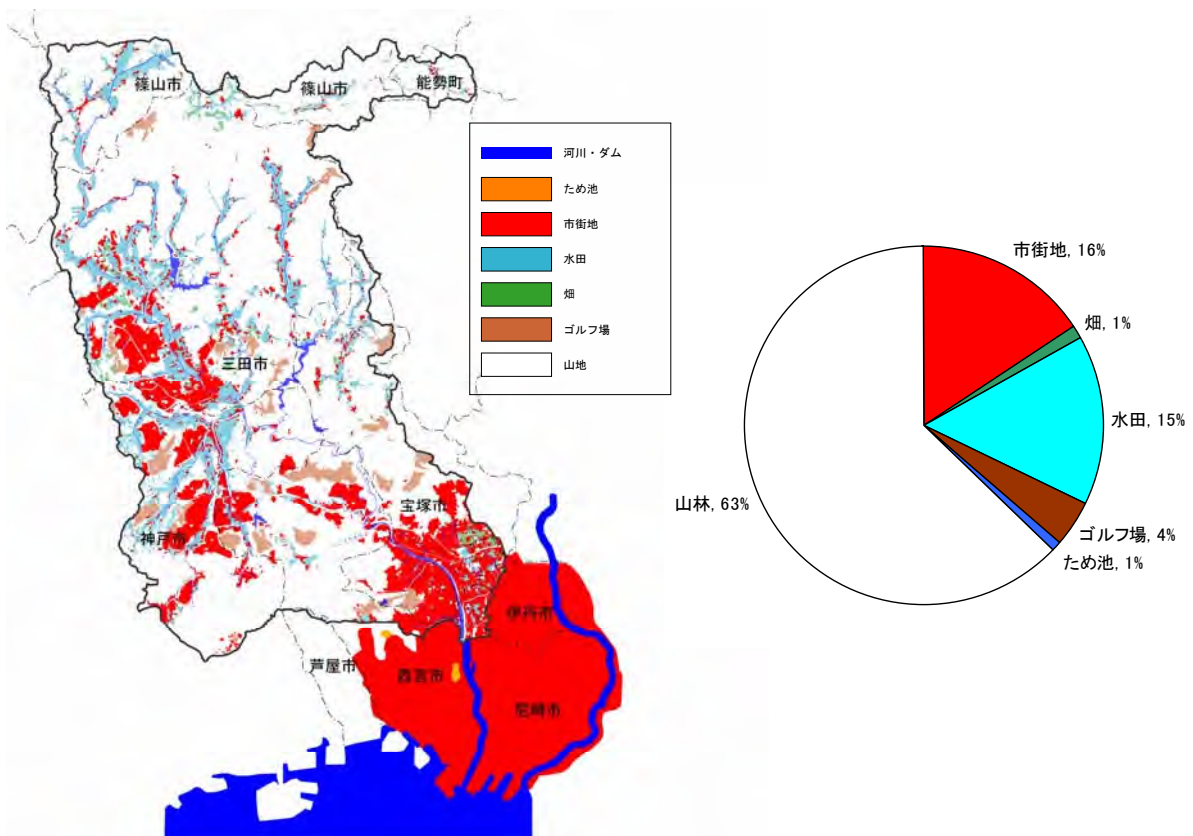


図 3.1.3 流域土地利用の状況（2002年調査）

### 3.2 人口

武庫川下流の氾濫域である尼崎市、西宮市は高度に市街化が進み、早くから人口集中地域となっており、西宮市では近年も人口の増加傾向が継続している。尼崎では1970年に人口がピークに達し、その後徐々に減少しているが、世帯数は逆に増加しており、核家族化が進んでいたことがわかる。逆に、周辺地域である伊丹市、宝塚市では1970年～1980年にかけて世帯数、人口ともに増加している。これには交通網の発達により、通勤等の時間が短縮されたこと、ニュータウンが整備されたことにより、市街地よりも郊外の住宅地に居を構える人が多くなったことが影響している。

三田市では、大規模ニュータウンの開発や交通環境が整えられたことから、1985年を境に急激に人口が増加していたが、近年は横ばいとなっている。

1999年に篠山町、西紀町、丹南町、今田町の4町が合併して篠山市にしきちょうとなったため、グラフ中の1965年～1995年は旧4町の合計値を示している。篠山市はJR福知山線の複線電化に伴い、南部でベッドタウン化されているが、市全体で見ると、世帯数、人口ともに横這いとなっている。

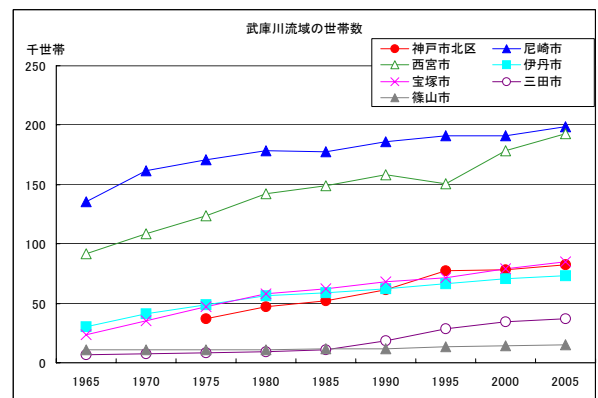
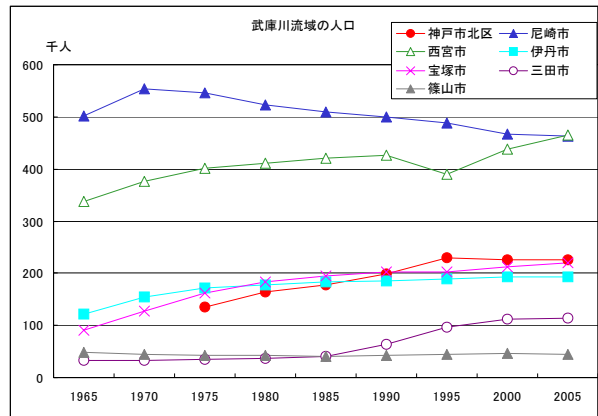


図 3.2.1 世帯数および人口の変遷 (流域関係市)

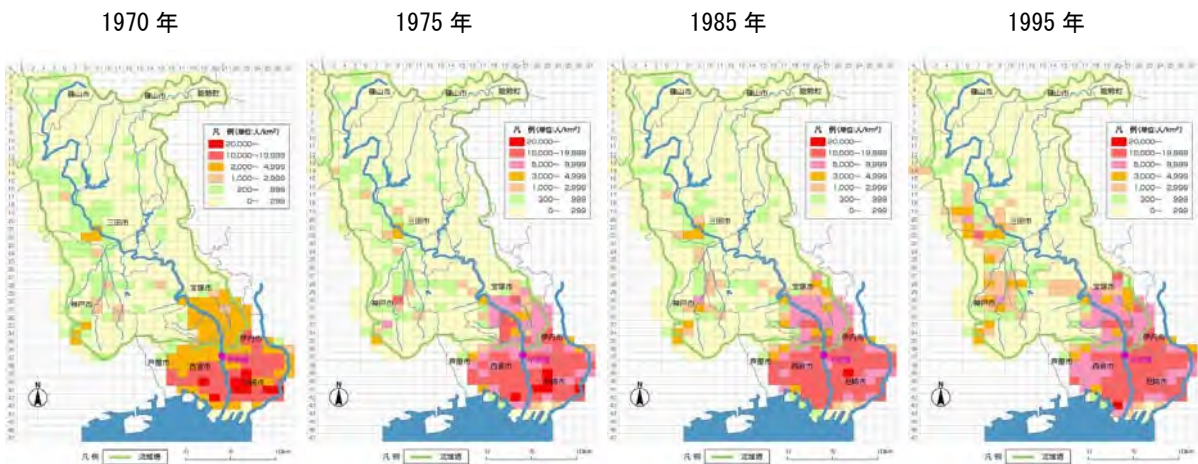


図 3.2.2 流域の人口分布



### 3.3 産業・経済

尼崎市など武庫川の河口部・臨海部周辺や JR 福知山線沿いでは、古くから製造業が集積し、阪神工業地帯の中核部の一つとしてわが国の高度成長を多様な面で支えてきた。また近年は、中国自動車道沿線の西宮北部、神戸市北区、三田市などで工業団地や流通業務団地等が整備されている。高度経済成長から安定成長へと移行していくなかで、流域の産業構造もサービス経済化がすすみ、第3次産業のウェイトがより高くなりつつある。景気の低迷や構造的な不況により製造業等のモノづくり産業は厳しい状況にさらされており、より付加価値の高い産業構造への転換が流域自治体の大きな政策課題となっている。

#### (1) 産業構成

事務所数・従業員数ともに、尼崎市や伊丹市で製造業を中心とする第2次産業のウェイトが比較的高い。また、篠山市についても第2次産業のウェイトが高いが、これは商業・サービス業など第3次産業が発展途上であるためと推察される。

表 3.3.1 産業構成

	尼崎市		西宮市		伊丹市		宝塚市		三田市		神戸市北区		篠山市	
	事業者数	従業者数	事業者数	従業者数	事業者数	従業者数	事業者数	従業者数	事業者数	従業者数	事業者数	従業者数	事業者数	従業者数
農林漁業	8	195	6	61	3	59	14	117	8	120	12	150	9	192
農業	8	195	6	61	3	59	14	117	8	120	9	132	8	179
林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	18	1	13
漁業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
非農林漁業	18,771	168,939	13,049	121,172	5,712	60,248	4,856	44,164	2,384	32,098	4,660	42,316	2,258	16,342
鉱業	1	26	-	-	-	-	-	-	-	-	2	22	2	4
建設業	1,394	12,959	842	6,884	493	4,474	348	2,735	209	1,364	370	2,289	386	1,626
製造業	2,048	40,846	451	14,346	543	17,976	151	4,890	175	8,437	147	2,326	310	4,869
電気・ガス・熱供給・水道業	7	490	3	258	2	25	2	49	3	142	6	75	1	13
情報通信業	101	2,453	81	1,237	23	273	25	303	19	1,765	35	193	8	46
運輸業	327	9,507	250	8,792	123	4,066	41	1,445	31	1,077	164	1,910	29	556
卸売・小売業	5,414	36,063	3,676	29,362	1,688	13,980	1,524	11,438	724	6,736	1,342	11,626	665	3,757
金融・保険業	248	3,619	171	2,427	71	887	55	672	31	448	50	461	23	225
不動産業	1,004	3,204	1,300	4,082	324	1,142	407	1,305	113	553	220	591	65	131
飲食店、宿泊業	3,406	15,181	2,263	13,058	845	5,131	699	5,182	296	3,055	647	7,065	207	1,275
医療、福祉	1,090	15,472	992	15,249	346	4,288	451	6,306	157	3,380	440	8,818	85	1,655
教育、学習支援業	494	4,457	605	8,626	189	1,104	234	2,149	145	1,753	339	1,684	73	275
複合サービス事業	50	386	31	204	13	79	10	131	15	131	18	431	26	214
サービス業（その他）	3,187	24,276	2,384	16,647	1,052	6,823	909	7,559	466	3,257	880	4,825	378	1,696

※平成16年度 事業所・企業統計調査より（流域外を含む）

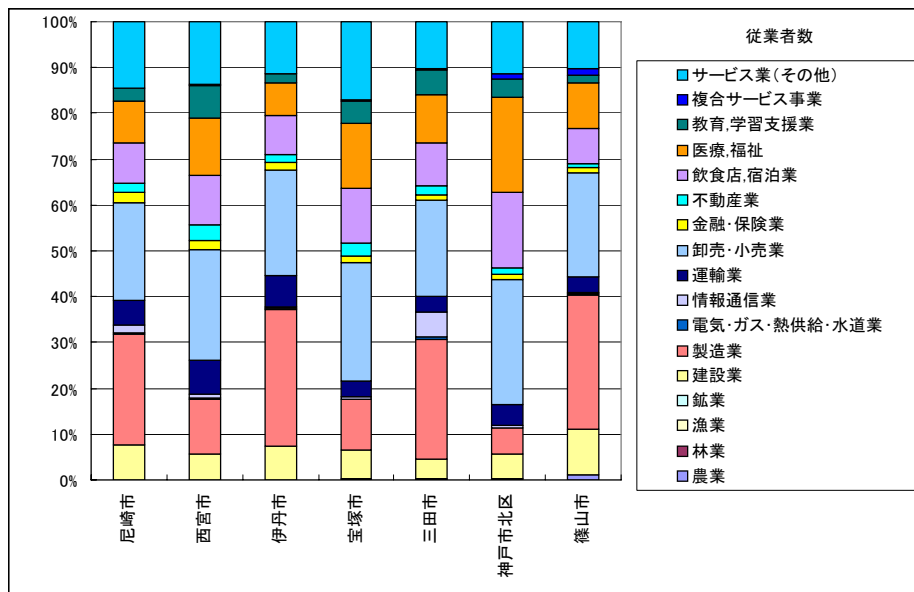
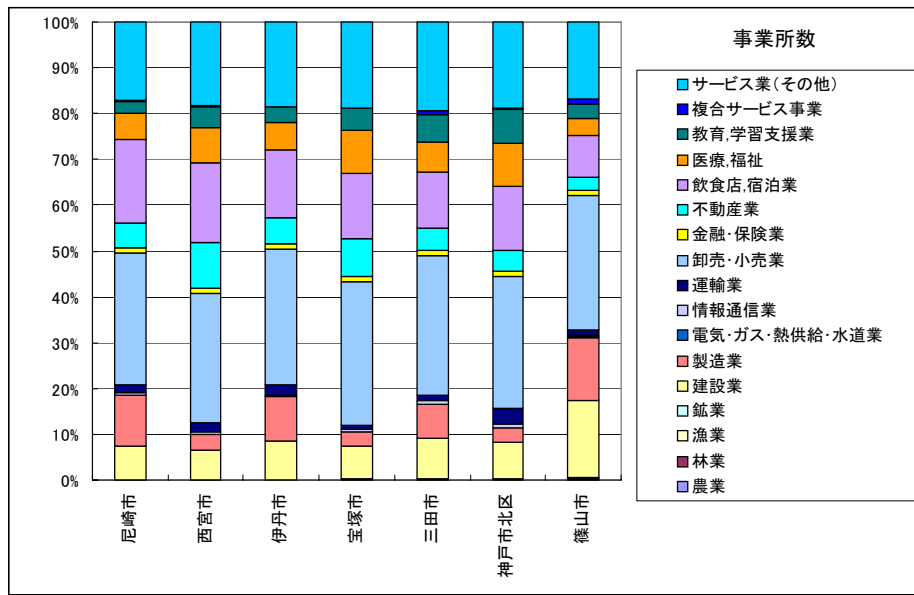


図 3.3.1 流域関係市の産業構成（平成 16 年 事業所・企業統計調査）



## (2) 製造業、商業

事業所数・出荷額とも尼崎市が他市を圧倒して多く、これに伊丹市や西宮市が続いている。1事業所あたり出荷額では、三田市が約 32 億円で最も多く、生産効率の高い新鋭工場の立地がすすんでいるものと考えられる。商店数・年間販売額ともに、地域密着型の商店街が数多くみられる尼崎市が流域自治体で最も多い。また販売額では西宮市のウェイトも高く、1 商店あたりの販売額は流域自治体中最も多い。

表 3.3.2 製造業と商業の概要

	製造業		商業	
	事業所数	製造品出荷額等 (百万円)	事業所数	年間商品販売額 (百万円)
尼崎市	1,018	1,321,233	5362	791,322
西宮市	244	427,091	3641	733,338
伊丹市	334	569,531	1677	402,769
宝塚市	99	87,938	1518	178,435
三田市	116	369,622	725	118,574
神戸市北区	93	127,973	1324	191,637
篠山市	160	207,000	668	60,948

※製造業は、平成 17 年工業統計調査結果より  
 ※※商業は、平成 16 年商業統計調査結果より  
 (いずれも流域外を含む)

## (3) 農林業

流域上流部の篠山市、三田市では、武庫川沿いに水田を中心とする農用地が流域自治体の中では多い。

表 3.3.3 農林業の概要

	総農家数 (戸)	経営耕地		耕作放棄地		所有山林 (a)
		農家数(戸)	面積(a)	農家数(戸)	面積(a)	
尼崎市	360	360	11,038	15	186	37,970
西宮市	457	457	15,929	31	432	377,307
伊丹市	463	461	15,236	11	144	62,650
宝塚市	702	698	39,790	58	862	74,647
三田市	2,152	2,149	185,674	194	3,261	134,383
神戸市	5,284	5,282	393,747	720	15,339	330,901
篠山市	4,567	4,566	371,785	638	8,625	660,548

※2005 (H17 年) 農林業センサスより (流域外を含む)  
 ※※神戸市は全市の統計値である。

## (4) 地場産業・特産品

流域における主な地場産業としては、西宮市南部や伊丹市の清酒、西宮市北部の和紙(名塩紙)、神戸市北部・西宮市・三田市の竹製品などが知られている。主な特産品としては、宝塚市・伊丹市の花卉・植木、三田市の三田牛、篠山市の黒豆・猪肉・松茸・丹波茶がある。

### 3.4 交通

武庫川流域は近畿と中国・九州圏とを結ぶ交通の要衝となっている。南部に名神高速道、阪神高速神戸線と湾岸線が横断し、中国自動車道と山陽自動車道が流域内で結節し、北部では舞鶴若狭道が縦断している。また、JR 西日本の山陽新幹線、山陽本線をはじめ、阪急電鉄、阪神電鉄、神戸電鉄が武庫川を横断しており、JR 福知山線は武庫平野から篠山市までを縦断している。これらの交通網の整備とともに流域各市町が発展してきた経緯がある。

国道網も南部の東西を2号と43号、南北には176号、篠山地区では東西に372号が走っている。神戸市北区、西宮市と宝塚市北部を通る新名神高速道路が計画されている。



図 3.4.1 流域内の主要な交通網